

わが子のあゆみ



岐阜県PTAが作る子育て情報機関誌

2016.9 NO.444

初秋号

第68巻2号

9

親子オリエンテーリング

5月14日(土)、土曜授業と合わせて、「親子オリエンテーリング」をしました。親子でふれあいながら「ふるさと安八」のまちを歩き、郷土のことを知るとともに、体力づくりの機会としようとする行事です。

澄み渡った青空のもと、地域を巡る約6kmのコースを2時間ほどかけて歩きました。

10カ所のポイントでは、「長良川の堤防が切れたのは、昭和何年の何月何日でしたか」といった郷土に関わる問題が出題されました。一生懸命に史跡看板を読んで解答したり、励ましの声をかけ合いながら歩いたりして、親子でたくさんふれあうことができました。また、約1時間で全てのポイントを回って、ガッツポーズでゴールした体力自慢の親子もいました。

あんばちちょうりつ な もりしょうがっこう

安八町立名森小学校

●【学校の教育目標】

豊かな心でよく考え すすんで生きぬく子
「考える子」「助け合う子」「きたえる子」



岐阜市立常磐小学校

【ぎふしりつときわしょうがっこう】

- 住所 〒502-0803 岐阜市上土居838番地
- TEL (058)231-5915
- FAX (058)231-5982
- URL <http://cms.gifu-gif.ed.jp/tokiwa-e/>
- メール gisyo21@tokiwa-e.gifu-gif.ed.jp
- 児童数 363名



校歌

常磐小学校校歌

作詞 野田 満
作曲 小木曾 薫

一、晴れやかに 晴れやかに
心が開く 緑の松の この下に
常磐の子どもの 心が弾む
清く正しい子になるこ
子になるこ

二、はるばると はるばると
列が続くよ その下に
常磐の子どもの 列が続く
なおく明るく進まんと
進まんと

三、きらきらと きらきらと
風が光るよ 野に立ちて
常磐の子どもの 目と目が光る
みんなそろって育つとつ
育つとつ

やさしく頼もしい常磐っ子 学び合う 助け合う 鍛え合う

沿革・地域の自然や風土

本校は、明治五年の開校以来、長い歴史があります。地域の人々の学校への愛着は強く、学校に対して大変協力的です。また、保護者はPTA活動に熱心で、登下校の見守りや種々のボランティア活動などに積極的に取り組んでいます。

平成二十五年年度にコミュニティスクールの指定を受け、四年目になります。PTAや様々な団体との連携を深めると同時に、運営協議会の皆さんから適切なアドバイスを受けながら教育活動を充実させています。

学校の教育目標

今年度より上のように新たな教育目標を掲げ、これまで以上に学校・家庭・地域が一体となり、やさしく頼もしい常磐っ子の育成を推進しています。

【学び合う】
・小中九年間を見通して、基礎的な学習姿勢・学習習慣の定着を図ります。
・仲間と共に学び合える、どの子も「学び」ことは楽しいと思える授業をつくりめます。
・出前講座や外部講師を活用した多彩な学びの工夫をします。



▲相手を説得するための作戦会議

【助け合う】
・ふわふわの木



▲心を育てるふわふわの木

【鍛え合う】
・苦手なことでもがんばる力、失敗しても挑戦する力をつけます。
・他者と関わる場、自分のよさを発揮する場を設定し、自己肯定感や自己有用感をもたせます。



【絆を深める】
・三つおぼけ屋敷

【行動に移す】
・熊本地震に伴う募金活動

【全員が主役】
・学級討論会

【夢中】
・夢中で演奏に聴き入る子どもたち

【助け合う】
・ふわふわの木

【鍛え合う】
・苦手なことでも

【絆を深める】
・三つおぼけ屋敷

【行動に移す】
・熊本地震に伴う募金活動

【全員が主役】
・学級討論会

【夢中】
・夢中で演奏に聴き入る子どもたち

【絆を深める】
・三つおぼけ屋敷

【行動に移す】
・熊本地震に伴う募金活動

【助け合う】
・ふわふわの木

【鍛え合う】
・苦手なことでも

【絆を深める】
・三つおぼけ屋敷

【行動に移す】
・熊本地震に伴う募金活動

【全員が主役】
・学級討論会

【夢中】
・夢中で演奏に聴き入る子どもたち

【絆を深める】
・三つおぼけ屋敷

【行動に移す】
・熊本地震に伴う募金活動



▲夢中で演奏に聴き入る子どもたち



▲「かわさき」を踊る高学年の子どもたち



【熊本地震に伴う募金活動】
平成二十八年四月十四日(木)熊本県熊本地方を震源とする最大震度七の地震により、熊本県益城町を中心に大きな被害が出ました。

この話を聞いた子どもたちは自分たちができることはないかと考え、「できる範囲でよいので募金をする」ことになりました。

児童会企画委員が中心となり募金を呼びかけました。それぞれが工夫して作った募金箱を手に、企画委員が校門に立ちました。

四月二十二日(金)・二十五日(月)・二十六日(火)の三日で集まったお金は、八万七千五百二十八円でした。このお金は、企画委員と担当教師で中日新聞社事業団に届けました。



【学級討論会をしよう】
六月七日(火)六年の国語の授業を全職員で参観しました。学級討論会本番に向けて、グルー



▲でたー！おぼけー



▲募金に協力する子どもたち



学校のたからもの
X・X・X・X・X・X・X・X・X・X・X・X・X・X・X

郡上市立大和第一北小学校

【ぐじょうしりつやまとだいいちきたしょうがっこう】
 ●住所 〒501-4611 郡上市大和町万場1950
 ●TEL (0575)88-2228
 ●FAX (0575)88-9034
 ●メール dai1kita-sho@gujo.ed.jp
 ●児童数 47名

学校の教育目標 豊かな心をもった たくましい子

・よく考える子・助け合う子・進んでやる子 合言葉「みつけて みんなで やりぬこう」

沿革・地域の自然や風土

本校は、明治六年に「万場義校」として開校し、平成十五年の町村合併によって、現在の郡上市立大和第一北小学校になりました。

校区は周りを緑に囲まれ、近くには清流長良川が流れています。また、学校に隣接して「ホテルの里公園」があり、初夏にはたくさんのホテルが舞う自然豊かな地域です。学校のある大和町は、「古今伝授の里」としても知られています。「古今伝授」とは、古今和歌集の歌の意味を弟子や子に伝えることですが、遠く室町時代に始まるこの「和歌」の文化は、今も大和町で大切にされています。

地域で育ち、地域へ発信する一北小

ふるさとの人・自然・歴史・文化を学び、地域の人と関わる活動を大切にしています。

①ホテルの学習(三年生)

ホテルの幼虫の餌となるカワニナを採取し、観察や飼育活動に取り組んでいます。六月中旬には、地域住民も招き、全校児童による「ホテル観察会」を行っています。観察会では、ホテルの個



▲ホテルの飼育活動



▲ホテル観察会

体数の計測も行い、経年変化を調べています。今年の観察会では、学校周辺の寺川、万場用水等で二匹五匹のホテルを確認しました。さらに、三年生は「ホテル捕獲会」を行い、捕獲したホテルを交尾・産卵させることを通して、ホテルや自然環境の保護について学んでいます。

「ホテルの里公園」整備事業を中心になって進めた地域の方には、毎年、講師としてお世話になっています。

【地域講師の方のお話】

私も小さい頃からホテルを見て育ってきました。ホテルが生息できるきれいな水のあるこの地域を、これからも大切にしていってほしいと願っています。

②郡上の味噌づくり(三年生)

地域の方を講師に、味噌づくりの体験活動を行っています。一人ひとりが「仕込み」や「味噌まぜ」を行い、「自分だけの味噌」を作ります。



▲郡上の味噌づくり

作ります。また、実際に大豆も栽培しながら、地域の食文化である「郡上の味噌」について学んでいます。

③短歌づくり(全校)

毎週木曜日の朝の活動として、全校で「短歌づくり」に取り組んでいます。季節や行事に合わせたテーマを受けて、各自が思い思いに短歌を作ります。できた作品は廊下に掲示し、互いに鑑賞できるようにしています。長良川鉄道の大和駅にも、代表児童の作品を展示しています。

【児童の作品】

たんじよび 七さいだからね えんぴつを
七ほんもちうた ほんとうらしい
おしにれい 顔をうつこみ 探して
やうと見つけた 小さな手ぶくろ
もふふふと ぼくを見おろす 白い雲
くしでもういでも 旅をしている

また、各種コンクールにも応募をし、これまでに多くの児童が賞を受けました。

④スキー教室(四・五・六年生)

郡上にはたくさんのスキー場があり、冬には県内外からスキー客が訪れます。学校でも、毎年一月に高学年を対象に「スキー教室」を実施しています。保護者や地域の方に教えていただき、上手に滑れるようになるにつれてスキーの楽しさを感じ取って



校歌

大和第一北小学校校歌

作詞 渡部 高雄
作曲 小木曾 薫

一、山はむらさき 水あおく
見る目やさしき 万場の地
ひときわ高く そびえたつ
ああ 第一北小学校
二 今あたらしく しんじつと
平和の光 もとめつつ
力合せて 進まん
ああ 第一北小学校



▲スキー教室

います。その他にも、郡上の歴史学習(六年生)、無農薬での米づくり体験(五年生)、身近な福祉の学習(四年生)などに取り組んでいます。



みんななかよし 一北小

学年を越えて、全校児童の仲のよいことが学校の自慢です。縦割り班での活動や毎日の登下校では、上級生が下級生の面倒をみたり、下級生は上級生を頼りにしたりと、よい関わりができています。休み時間も、高学年と低学年が仲よく一緒に遊ぶ

姿が見られます。

①なかよしチーム活動

五つの縦割り班(なかよしチーム)を編成し、なかよし集会で一緒にゲームをしたり、毎日の清掃活動に取り組んだりしています。また、なかよしチーム対抗の「大縄跳び大会」では、皆で声をかけ合ったり、教え合ったりしながら練習を続け、班のメンバーの団結力を高めています。二年生を迎える会や「六年生を送る会」などの児童会行事でも、なかよしチームを母体に心の交流を深めています。

②人権七夕集会

七夕の願い(人権標語)を親子



▲なかよしチームで大縄跳び



▲人権七夕



▲音楽集会

④グットハートカード

仲間のおさや頑張っている姿を見つけ、「グットハートカード」に書き、伝え合っています。カードは、教室や児童玄関前に掲示をしています。また、児童会生活委員会が中心となり、全校での「よいこと見つけ」を進め、よさを広めたり皆で認め合ったりしています。(K・M・キラキラ、一北の子、見つけ隊)こうした活動を通して、児童には、仲間とともに生活することの喜びを感じ取ってほしいと願っています。



美濃加茂市立下米田小学校

【みのかもしりつしもよねだしょうがっこう】

●住所 〒505-0018 美濃加茂市下米田町西脇578
 ●TEL (0574)25-2757
 ●FAX (0574)25-0891
 ●URL <http://www.city.minokamo.gifu.jp/school/yoneda/>
 ●メール shimoyoneda-sch@edu.forest.minokamo.gifu.jp
 ●児童数 325名

学校の教育目標

自主的に考え行動できる、かしこい子を育てる

- ・よく考える子
- ・思いやりのある子
- ・強い体の子

明治六年 福島村(現川辺町福島)に文明義校として創立されました。その後、下米田尋常高等小学校、下米田国民学校、下米田村立下米田小学校と改称され、現在に至っています。歴史学者「津田左右吉博士」は本校の卒業生であり、美濃加茂市では博士の遺徳をしのぶ様々な事業を行っています。学校に隣接している「津田左右吉博士記念館」は、地域文化の発展や文化交流のために多くの方が利用しています。

めざす子どもの姿

今年度は、学校経営構想に「美しい日本語 & Active Communication」をめざす子どもの姿として位置付けています。その具体的な取組として「丁寧な文字」「美しい言葉(敬語)」「ひたむきな掃除」を掲げ、その具現に向けて教育活動を行っています。また、児童会では「笑顔」をキーワードとし、全校の誰もが笑顔で学校生活を送ることができるよう活動しています。



▲学校キャラクター「よねびー」

沿革地域の自然や風土

毎週金曜日に二年生から六年生まで、全学級でEタイム英語の授業の時間を設け、ネイティブの発音にふれながら楽しく英語の授業を行っています。

「生き生き伝えあい」をめざす英語教育

平成十二年度から英語学習に力を入れている本校では、朝活動の時間に位置付けている「ジョイフルタイム」でも、英語教育となつていきます。



▲英語教育「生き生き伝えあい」

聴き手の心を動かす「一体感のある歌声」

朝の会が始まると、各教室から歌声が響いてきます。歌詞の意味を考え、言葉を大切に発音したり、曲の感じをつかんだりしながら、「今月の歌」を気持ちよく歌います。



▲一体感のある歌声「夢を追い求めて」



校歌

下米田小学校校歌

作詞 佐合さつき
 作曲 桑原哲郎

一、ぼくも私も米田の子どもよ
 毎日なかよく勉強し
 かしこい頭とよき心
 明るい米田をつくりましょう

二、ぼくも私も米田の子どもよ
 毎日元気に運動し
 強いからだでにこやかに
 楽しい米田をつくりましょう

三、ぼくも私も米田の子どもよ
 毎日学校ひけてから
 おうちの手伝い野良仕事
 豊かな米田をつくりましょう



▲はぐるま遊び



▲よなだっ子広場「星をみる会」



▲よなだっ子広場「ミニテニス」



▲よなだっ子広場「げんこつあめづくり」



▲よなだっ子広場「ユニカール」

異年齢とのかわりを深める「はぐるま遊び」

学年を越えた少人数グループを結成し、休み時間に一緒に遊ぶ「はぐるま遊び」に一緒に掃除をする「はぐるま掃除」を行っています。

どの子ども楽しめる遊びを考え、低学年に優しいルールを作る高学年。はぐるま遊びを終えて教室に戻っていく時には、高学年におんぶをしてみらっている低学年。「ほつきはこつやつて持つよ。」雑巾はこつやつて絞るよ。」掃除道具の使い方や掃除の仕方を低学年に教えるまなごし。

「学校へ行こう」

高学年の頼もしい手と低学年の可愛い手が、ぎゅつと繋がれている光景は、温かくほのぼのとしています。

「学校へ行こう」四月のPTA総会で、PTA会長さんから力強い宣言がありました。保護者がどんどん学校へ足を運び、我が子の姿を見てたくさん褒めてあげられる親子関係を築くことを願って掲げたスローガンです。授業参観日には、ほとんどの保護者が来校され、我が子の様子を微笑みながら見守るまなごしがとても印象的です。

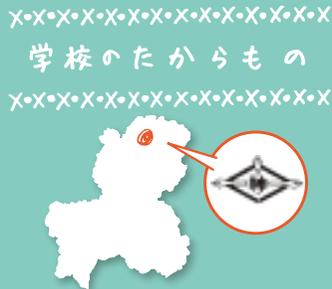
また、平成十三年から、「地域ぐるみで、温かい心もち、やる気と自信をもった下米田の子」の育成をめざすことを目的とした「よなだっ子広場」も継続して実施しています。PTA常任委員会が中心となつて企画・運営を行い、今年度は、「星をみる会」「げんこつあめづくり」「ミニテニス」「ユニカール」「登山」などと

「焼き・餅つき」を土曜日の午前四回計画し、参加を希望する児童や保護者を募っています。

地域の方や保護者の皆様のおかげで、普段の学校生活では味わえない感動や体験を子どもたちと大人が共有できる素敵なひとときです。

◆「夢を追い求めて」
 作詞・作曲 大嶋 雅彦

知っています 左右吉博士 我が下米田の偉人
 知っています 左右吉博士 歴史求め続けた人
 子どもの時から勉学に励み 本をいっしょに読んで
 大きな夢を持ち続けた 叶えるために一歩ずつ
 ぼくたちも私たちも 夢をもつて生きていきたい
 ぼくたちも私たちも 夢は叶えていくもの
 夢は追い求めるもの それに向かつて歩むもの
 夢は追い求めるもの 生きていく限り抱くもの



飛騨市立神岡中学校

【ひだしりつかみおかちゅうがっこう】
 ●住所 〒506-1126 飛騨市神岡町桜ヶ丘1
 ●TEL (0578)82-1164
 ●FAX (0578)82-0231
 ●メール kamioka-jhs-0231@school-hida.jp
 ●生徒数 174名

「自立 貢献」

学校の教育目標



校歌

神岡中学校校歌

作詞 荒垣 利夫
 作曲 伊藤 隆一

一、白銀光る アルプスの
 永遠にかわらぬ 雪の色
 朝な夕なに 仰ぎみて
 われらは学ぶ この丘に

二、けがれぬ胸の 奥深く
 かおる理想の 花の影
 強く正しく 生きなんと
 流れに清く 身を映す

三、雲より高き 山の嶺も
 のぼりきわむる 途はあり
 理想求めて ひたすらに
 勇みてわれら 進まなん

学校の沿革

昭和二十二年、新制中学校として吉城郡船津町立船津中学校が開校し、昭和二十五年の町村合併による神岡町誕生にともない神岡中学校と改称しました。

昭和四十三年から十年ほどの間に五つの中学校を統合し、山村地区を除いた神岡町が校区となり現在に至っています。岐阜県の最北部に位置する校区は、北アルプスのふもと清流高原川が流れ、人々は四季折々の自然の恵を享受しています。また、かつては東洋と呼ばれた鉱山では、坑道を利用した「スーパーカミオカンデ」に代表される宇宙線研究施設群が建設され、最先端の研究が進められています。

平成二十六年から学校の教育目標を「自立 貢献」とし、「自立」とは未来を切り拓く力を身に付けた姿、「貢献」とは身に付けた力で自分の役割を果たし、皆が幸せになる社会を創る姿と見え、その具現をめざして教育活動に励んでいます。

神岡中学校では「つながる」を合言葉に、「目を見て心をつなぐ」



根拠を付けて仲間を考え、「目を見て」は、その人を信じているよ、応援するよという、人として一番大切な思いや心が形になったものです。「根拠をつける」は自分の考えのもとであり、人に伝え、互いに分かり合っていくためにはなくてはならないものです。

全ての教室に「①目を見て」だまって最後まで聴く②結論に根拠を付けて話す③仲間の発言につないで話す」を掲げ、教師は毎日の授業でこの姿に立ち止まって価値付け、生徒会学習委員は毎日の夕活の「オールA評価」で見つけます。

こうした仲間を認め大切にすることを、一人ひとりが目指す未来づくりのために安心して学習に取り組み、力を伸ばしていきます。



▲目を見て心をつなぐ姿

「自信」を育み「信頼」で結ばれる生徒会

神岡中の生徒会が目指していることは、「あいさつ」「掃除」「合唱」の三本柱を始めとするやりきりと認め合いの日常活動を大切にして「一人ひとりに「自信と信頼」を築き、高い志と強い絆で結ばれた仲間になる」ことです。

「相手の目を見て、名前を呼んであいさつ」は、今年度特に力を入れていることです。それは、先輩後輩の垣根を越えて心をつなぎ、絆を強くしたいと考えているからです。名前を呼ばれた生徒は、必ず顔を向けて目を合わせます。自分の心と相手の心がつながったすてきな瞬間となります。掃除は、時間杯無言で、膝をついて汚れを落とします。広い校



▲名前をつけてのあいさつ

「きずな活動」
 日々の活動には、「ふるさと神岡のきずなをつなぐ活動」と「未来をつなぐきずな活動」

来をつなぐ活動」があります。これらの活動を通して、生徒は、ふるさと神岡の魅力や誇り、強いきずなを育みます。自分自身の未来をつなぐ力を育みます。

して取り組むこの活動は、まさに「地域の子ども達を地域ぐるみで育てる」ことにつながるものです。本年度、始めに目標確認、終わりに振り返りと、二つのミーティングを位置付け、高校生が中心となって進めたことで、目を合わせて、笑顔で、大きな声で、挨拶しようという願いに向かっ

てこれまで以上の取り組みが展開されました。

②「三年生30km健脚」は、30kmをただひたすら歩き通す精神的にも体力的にもつらい行事ですが、毎日毎日取り組んできた「きずな活動」で培った信頼関係や感謝の心でゴールできたことで自信をつけ、ふるさと神岡町の風景を心に刻む行事となっています。

「未来をつなぐきずな活動」
 神岡中学校と山之村中学校と飛騨神岡高校は県内に四つしかない連携型中高貫教育推進校に指定されています。他の中学校ではなかなかできない貴重な活動がたくさんあります。



▲スーパーカミオカンデ見学



▲高校体験授業



▲小中高合同ふるさとあいさつ運動



▲中高部活交流(ロボット部)



▲3年生30km健脚

仲間と共に「このようなきずな活動」に取り組むことにより、ふるさとへの誇りや愛着が育まれています。また様々な体験活動を通して、達成感や充実感、成功体験を積み重ねたことで「自己肯定感が高く、夢や目標をもって学校生活を送れる生徒が育っています。」



▲仲間と心をつなぐ合唱

わが子のあゆみ

2016.9 No.444 初秋号

表紙 安八町立名森小学校

学校のたからもの 1

岐阜市立常磐小学校 / 郡上市立大和第一北小学校 / 美濃加茂市立下米田小学校 / 飛騨市立神岡中学校

わが家の宝物 垂井町立垂井小学校PTA 会長 小竹祥悟 9

特集・「子育て 大切な視点」前編 11

講師 安藤大作さん(安藤塾塾長 元三重県PTA連合会会長)

家庭教育応援団! ②

実践紹介1 山県市立大桑小学校 17

実践紹介2 神戸町立北小学校 18

シリーズ「療育」⑦ 岐阜県立中濃特別支援学校 19

お弁当の日 多治見市立共栄小学校PTA 21

保健室ノート 美濃市立美濃小学校 上田亜由美 23

私の先生② 揖斐川町立揖斐小学校 教頭 高木俊紀 25

子育て半生紀 各務原市立那加第二小学校PTA 会長 中川輝秋 27

高山市のPTAふれあいニュース [vol.2] 29

高山市立新宮小学校PTA

高山市立三枝小学校

高山市立朝日小学校PTA

高山市立東山中学校PTA

私が出会った1冊の本【続27】 31

関市立南ヶ丘小学校PTA 竹山可奈

養老町立高田中学校PTA 会計 佐竹 哲

わが家の約束 33

可児市立帷子小学校PTA 副会長 可児了子

北方町立北方中学校PTA 会長 仲島秀雄

子の思い・親の願い・教育の窓 35

子の思い

羽島市立堀津小学校3年 不破心菜

大垣市立中川小学校4年 長瀬健新

坂祝町立坂祝中学校3年 井上友菜

親の願い

多治見市立北栄小学校PTA 会長 玉井美智子

神戸町立神戸中学校PTA 会長 和藤潤司

教育の窓

美濃市立牧谷小学校 校長 鷺見昭二

岐阜市立青山中学校 教頭 宮部 寿

親子ではてな 40

インフォメーション 41

お試しクッキング 岐阜県学校栄養士会 42

スタミナ井

ふるさとの伝承 43

美濃加茂市立太田小学校

きらり!キッズ! 45

中津川市立落合小学校

夢中!熱中!我らが部活 47

美濃加茂市立東中学校

私たちのPTA 49

岐阜市立合渡小学校PTA



わが家の宝物

垂井町立垂井小学校
PTA会長 小竹 祥悟



ありふれた日常

わが家には、小学五年生になる男の子と小学二年生の女の子がいます。

上の子は、小学二年生から始めたサッカーを一生懸命頑張っています。平日はナイター練習、週末は試合といったスケジュールの中、塾にも通い、空いた時間を見つけては友達と遊んでいます。今年は地元垂井町の曳やま祭りに芸児として参加させて頂きました。

下の子は今年の四月から小学校に入学し、初めてのうちは慣れない環境、生活に少し戸惑いがあったように感じましたが、今では学校から帰ってくると近くの友達と元気に仲良く遊び、習い事も頑張ってきて取り組んでいます。

このように、子どもたちが元気に学校に通い、友達と遊び、健康でいられるという特別ではなく何でもないありふれた日常こそが「わが家の宝物」です。

この宝物の為に、毎日子どもたちや家族を支えてくれる妻には大変感謝しています。

また、いつも元気をもらえる友人たちや地域活動、PTA活動を通じて知り合うことが出来た多くの方々との縁やそこで得た経験は私の宝物です。



「子育て 大切な視点」

前編

講師・安藤 大作さん（安藤塾塾長・元三重県PTA連合会会長）

みなさん、今日は。紹介いただきました安藤です。私は今、四十七才です。大学を出て直ぐに八畳一間で安藤塾というのを開きまして、生徒数は千数百人になりました。塾をやっていると、勉強だけを教えるというより、小さい時の影響がすごく大きいなと思って、四十才の時に保育園を一つ作り、四十四才の時に一つ作り、そのような仕事をさせていた দিয়েおられます。

平成二十五年に、三重県でPTAの全国大会がありました。その時会長をさせていただいておりまして、岐阜県の皆様には本当にお世話になりました。有難うございました。

そんな私なんですが、今から二十六年前の一九九〇年の九月十九日、私は信州の大学に通ってたんですが、その夜七時過ぎにアパートの一室で自殺未遂をしました。私は本当に傷ついて傷ついて、我慢して我慢して、自分の親に言いたいことが言えずにずっと来ていて、高校生の頃からちょっとヤバイなというふうになってたんですけどね。大学の独り暮らしの時までなんとか誤魔化しはしていたんですけど、ただ大学四年生の就職活動の時に、衝動が突然、その日にやってきました。では、少し映像（DVD）をご覧ください。

*

ない、信州松本の街をひたすら雨に打たれながら、何時間も走ります。そして、踏み止まります。結果、命が残った自分は、アパートで一冊のノートを取り出しました。小さい頃からのみじめな思い、不満、辛かったこと、悔しかったこと、悲しかったこと、殴り書きでノートに書き尽していきました。臭いものにフタをして、誤魔化してきたそれまでの自分。自分の本当の心と向き合わずに、逃げてきたそれまでの自分。でもその晩、私はフタの中の臭いものを出し始めたのです。

翌朝、故郷の伊勢から電話がありました。台風が伊勢にも襲いかかり、夜の間に私が育った家を壊してしまっていました。今までの私も、何もかも壊れた日でした。

私はその日から、自分の心をじっと見続け、苦しいながらも本当の自分の心を見つめ続けていたら、何も食べられない日が続きました。それでも毎日、自分の本当の気持ちを掘り下げたら、少しずつ自分の本当の潜在意識に気付いていきました。そして、その日がやってきました。

*

二週間後、私は母親を東京から松本に呼び出し、親にいい子ぶってきた私、本当の気持ちを言えば母に嫌われると思った私は、もうその時は嫌われたらどうしようなんて余裕も無くて、ただただ、言わなければ自分が自分で無くなる、その思いだけで、もう嫌われたっていいと縁を切るくらいのつもりで母親に全てをぶつけていきます、命をかけて。母とは一晩中話しました。そして確信したこと、それは母の愛

四才の頃、両親が離婚したという事実を知っています。その後、私は父方に引き取られ、父の再婚相手である新しい母に馴染まず、結局は母方に戻されたことも知っています。でも自分に記憶は小学生からであり、それ以前のことなど殆ど記憶にありません。

記憶に残したくなかったのかもしれない。ただ、忘れたかった。愛されてなど無いと思っていた。父も遠い存在。母も、甘えたくても甘えられない存在。母の身体に触れることすら怯えて、悩んで、結局あきらめていました。

小学校に入り、しばらくしてその母も、私たちを残して東京に行ってしまった。直後、祖母もあの世に旅立ち、身寄りのない私や妹は母の知人に預けられます。やがて、母からの仕送りも途絶え、貧乏で不自由な毎日。外では明るくしていても、いつも友だちを羨んで、自分の親の悪口は聞きたくない。そんなみじめな思いを取りはらうためにも、小学生から新聞配達をしながら自分は幸せなんだと思いたくて、頑張りました。

大勢の方々の愛に助けられていたものの、自分をはじめなずで、愛されていない子だから頑張るしかないと思いついていました。だからもし、自分が頑張らなかつたら、もし認められなかつ

でした。母も弱い、母も未熟、でも母は私をこの世に産んでくれました。また私の魂がこの母を選んだのだ。この母とつながっている。その晩から私は自分が存在していること、そのことだけに唯、自信を持ち始めました。

*

世の中のいろんな景色が、キラキラしているように見えてきました。そして私は、皆にこの感覚を伝えたいと思いました。自分に愛をくれた故郷で、勝手にみじめといじけていた気持ちをもうと深く見つめ直せる伊勢で、塾を開くことにしました。伝えるために、君も愛されているよ。君の可能性、無限だよ。かつての自分とよく似た子たちが、ご縁が集まり出しました。塾、サッカークラブ。心でつながる仲間たちがどんどん増えてきました。

*

私は言い続けました。自分の、本当の気持ちを誤魔化すな。親に、本音でぶつかれ。涙流してぶつかれ。お父さんお母さんに、産んでくれて有難うと思えるまで、思えるまで話ししな。愛されている。そのことを感じよう。皆で幸せになる。だから、自分の思い込みを、勇気を



たら、生きていく意味など無いと思っていました。

*

やがて、何年も連絡が取れなかった父からの援助も受け、私は国立大学への進学を認められました。結局、私は恵まれていました。でもまだ二十一才、大学四年の就職活動の頃、私はやっぱり死にたいと思ってしまう。なぜなら、やっぱり自分はみじめな子としか思えなかった。それまでの自分はずっと、人からの脚光を求め、人からの脚光が存在理由でした。でも苦しくて、社会に出るといふその頃、俺はこの先、一体どこで働けばまた脚光を浴びられるのか。そう悩んでいるうちに気づきました。

結局、俺は、自分がやりたい事なんぞ無い。俺の存在なぞ、そもそも実態が無い。結局、俺は昔からずっとこうだった。所詮、僕は愛されてない。意識が逆行し、自分の存在の無さに、愕然としました。

*

一九九〇年九月十九日、台風十九号が日本列島を直撃している夜七時すぎ、私は死を決意します。

空しかっただけです。しかしその時私は、自分の心にさす不安を取り除くために、導かれるかのように暴風雨の中、誰も歩かない車も走ら

持って知るんや。どうせ出来ないとか、どうせ意味が無いとか言うな。本当は、出来るようになるんや。どうして、大事にされてないって、いじけるんや。そんな自分の思い込みを、しっかり見つめろ。そして向き合えよ。

僕も出来なかつた。でも、勇気を出したらできた。君らもできる。お父さんお母さんがいたから、君が産まれた。お父さんお母さんにも弱さがある。お父さんお母さんを信じて、お父さんお母さんと向き合えよ。本当の自分の気持ちをよく確かめて、お父さんお母さんにしっかりと伝えればいい。

子どもたちもみんな、ワクワク生きよう。みんな、出来る。みんな、愛されている。独りじゃない。愛に満たされて、皆、幸せに生きて行こう。私は、それを伝えていきたいと思いました。

（以上DVDより）

離婚・自殺未遂

私は、四才の頃に両親が離婚しました。DVDにあったように、父親方に行つて「今日からこの新しい人をお母さんと呼びなさい」と言うことでした。だけど呼べなかつた。もししたら、お父さんが怒って、お母さんの方に私を置いて去って行きました。その時の、一人になった時の光景は、覚えています。そしてよく、あなたたちのお母さんは仕送りを送ってこないとか、親の悪口を母親が東京に行った後、よく聞かされました。私には妹がいますが長男なので、何かそのことに関して責任を感じて、自分が何とかしなきゃと思つて、親の悪口だけは聞きたく



ない、その気持ちで一杯でした。

周りの人たちが、母親の悪口を言いました。私の父親の悪口も言いました。その時、小学校三年生くらいでしたけど、それだけは聞きたくなかった。だから「寂しいやろう」と人に言われると、「全く寂しくない」って言っていました。本当は寂しいですけど。「お父さん、お母さんのこと恨んどるやろう」って言われても「全く恨んでない」って。本当は言いたいこと、一杯ありましたけど自分の本当の気持ちは、言えばお父さんお母さんに矢が向くのがすごく嫌で、本当の感情を出さずに、本当の気持ちも言わずに、お父さんお母さんが好きなので、どうであつても、そんなふう到我慢していました。

そして一九九〇年九月十九日、そのことがあつて、遂にコップからいろいろな思いがあふれ出てしまつて、このまま生きていくことに勇気が無くて、そして死のうと思いました。

母親と

だけど、死ぬくらいの勇気があるなら、親と向き合います。いつもなら、母親に会いたいと電話しても、「今忙しい」「ああ、分かった」とい子ぶつてたんですが、その時は「俺が会いたいと言つてるのに、何で来てくれへんのや」ということを、本当におつづけました。あまり親には感情を出さなかつたけど、ぶつづけました。

そしたら、びっくりして来ました。

私は自分の抑えてきた色んな気持ちを、ただ言いました。一晩中話していて、明け方小鳥の聲が聞こえて、ああもう朝かと気がつきました。

いて、一人旅でベネチアのホテルに泊まつたことがあります。その数年前に。ベネチアに在るルナって言うホテルです。そこに、泊まつたことがありました。

そして二人の旅が始まりました。成田空港から、ずーっと喧嘩のしつ放しです。朝ごはんをホテルで食べたなら、もう一緒に行動は無理。夕飯またこのレストランで会いましょう。さよなら、お互いバラバラ。そんな、一人で行つてののか二人で行つてののか分からない旅行が数日続きました。

でも最終日、エージェントが準備したホテルは「ルナ」でした。同じホテルでした。そして部屋に案内されて驚いたのは、数年前と同じ部屋で、今度は母親と一緒に泊まることになりました。まるで、我が家に戻つたかのような、そんな感じでした。

そして最終日、また朝ごはん食べたらいよいよ。けど、私はベネチアの街を一人歩きながら、俺は本当にこんなことがたくて、母と旅行してんのかな、何か空しくなつてきて、一人でホテルに帰つて、昼間からベッドに寝て、何か街を一人で回つているのが嫌になつて寝ていました。

不思議な体験

そしたら、不思議なことに意識が逆行して、一回泊まつたから自分の家のような感覚もあるし、そして母が何処へ行つたのかな、とずっと待っている感覚が不思議な体験ですが、何か昔に戻つてきたような四、五才児みたいな雰囲気になつてきました。ママ、ママの感じになつて



母親は私に謝りました。だけど僕は、謝つて欲しかったんじゃない。謝れとか、お前が悪いんだとか、そんな気持ちは全く無かつた。私は、貧乏だつたのが嫌だつたのでもないし、両親と生活出来なかつたのが寂しくて嫌だつた訳でもありません。私が嫌だつたのは、自分が親に怯えて、嫌われることを怖がつて、気を遣つて、そして話ができない。本当の気持ちを言う勇気が自分に持てない。そのことが嫌だつたんです。

だから、謝つて欲しいわけじゃないけど、その日私が一つ卒業できたのは、「言えた。縁も切れなかつた。受け止めてもらつた。」それだけです。話ができただけ。簡単に言うのと、甘えることが出来た。それがその時、一番大きかつたことです。

葛藤

その後、母とは何度もぶつかりました。その時、母はいつもこう言いました。「あんたは子どもなんやから、黙つとき」「あんたに、何が分かるの」。僕は責めてるつもりはないんですけど。「子ども

きました。その時びっくりしたのは、何と「ガチャツ」と戸が開いて、母親が帰つてきたんですね。

ベネチアを周っているはずの母親が、帰つて来たんです。まだ昼の二時位。その時私は、感覚が五才になつてますから、無意識にこう言いました。

「ママ、お帰り。ママ、抱っこして」。その時、二十五才位なんですけど。いろいろなやり取りをしましたから、母親も察知したと思います。母親は黙つて、ハグしてくれました。頭を撫で撫で。気持ち悪いように聞こえますけど、そんなシーンがありました。私の二つ目の卒業式です。

もうそれで、自分の中のいろんなものが抜けました。仕事にも、すべてのことにガンガン行けるようになりました。

でも二つの卒業式は、私にとつてどうしても必要だつた。そんなことがありました。

娘の行動

私は三十才の時に結婚しました。三人の子どもに恵まれました。今一番上は高校二年生、二番目は中学三年生、一番下は小学校六年生。男、女、男です。

三人とも、産まれた時には感動して、無条件の愛に包まれました。

やがて、何か変や、おかしい、と思うことが出てきました。それは真ん中の娘なんですけど、家族旅行に行く時に、サービスエリアでトイレ休憩をして再出発しますよね。そしたら、またトイレって言うんです。こういうこと、しょつ

のくせに。私は大人や。黙れ、しゃべるな」。すごく言われました。

母さん、僕は母さんを責めてるんじゃない。僕は自分の気持ちを言つとるだけや。

そやけど、あんたはそやつて言うけど、あんたの言い方やつたら批判に聞こえる。言わんといてほしい。黙つとき、大人には大人の事情がある。

でも俺は自分の気持ちを言つとるだけや。なんでそんなにムキになる方が子どもじゃないか。

黙れ言うたら黙れ、あんたは子どもなんや。何回も言うけど、僕はお母さんを責めてるんじゃない。自分の気持ちを言つてるだけや、自分の気持ちも言つたらいかんのか。自分の気持ちは言わしてくれ。

そうやつて、何度もぶつかりました。

贈り物

そんな時、初任給で友だちが母親にプレゼントするとか、初めてのボーナスで母親に何かを買うとか、いろいろ友だち伝いに聞こえてきました。私は勝手に自分で塾を開いたので、初任給と言うのはあまり感じたことは無くて、でも母に対して私も何かをプレゼントしたい。その時思い付いたのは「お母さん、一番行きたい所へ僕が連れて行くから、世界の中でどこでもいい、一番行きたい所へ一緒に旅行しよう、旅行したい」って言いました。

そしたら母は、イタリアのベネチアって言いました。実は私は大学でベネチアの研究をして

ちゆうするんですね。これから旅行に行くという朝に熱を出すとか、これからやつて言う時にケガするんですね。熱出したり、トイレって言うたり、何か困らす感じなんですよね。何か困らす感じで、その時にですね、腹立つてきました。

妹との事

実は、先ほど申し上げましたけど、私には二つ違いの妹がいます。その妹に対して、私はすごく苦手でした。

お母さんと一緒に買い物に行つたことがありました。妹は「これ欲しい、これ欲しい」って言うんですね、大して欲しくもないのに。お母さんはいつもこう言いました。「何言うてるのあんた、お兄ちゃん見てみなさい」。僕は欲しくても「そんなもんいらんわ」と言っていました。だけどお母さんの機嫌のいい時になると、「これあんた、この前欲しいって言つてたでしょ、買ってきてあげたよ」と買ってきたりするんです。僕も、本当は欲しいんだけど「いらん」と言つたので、僕のは無い。だから、お母さんが行った後、妹に「それ、貸せ」。すると妹はウソ泣きで「うわーん」。母親が奥から来て、「何なの、兄ちゃんも欲しかったら、欲しいと言つたらいいじゃない。何でその時、欲しいって言わなかつたの」と怒られたりする。

「何なんや、これは」。勝手に僕が全てを選んだことなんですけど、割に合わんなと思つて、そんな妹をいつの間にか敵視していました。

連鎖

上にお兄ちゃん、次に女の子を授かり、二人とも可愛いな、と思っていました。ところが、娘の中にそういうことが起こり始めると、娘に対するいら立ちが、どんどんわき上がってきました。

彼女に対する言葉も、「お前、いい加減にしろ」とか、買物に行っても「欲しくもないのに、欲しい欲しいって言うな」。お兄ちゃんには、「お前、本当は欲しいのと違うか?」。うちのかみさんにも叱られました。お父さんおかしくない?。っておかしいですよ、小さい頃のリベンジみたいな、変な感じで私は娘を責め続けてしまったんですね。そしたら、娘の劣等感コンプレックスっていうのがどんどん積み重なったんでしょうね。

病氣・入院

そんなある日、大きな出来事が娘に起こりました。それは、学校の健康診断で心臓が何かおかしい。精密検査を受けた方がいいということです。大病院で精密検査の結果、心臓に穴が空いていました。手術を受けて、結果は大丈夫だったんですが、沢山の人がお見舞いに来てくれました。彼女は、兄ちゃんを超えたいから頑張るの見てと勝気で頑張り屋だったんですが、それやっ

ても、もう勝てないかもしれない。お父ちゃんにこんなガチャガチャいわれるし。だけどケガしたら私のこと大切に扱ってくれる。病気になるから大切に扱ってくれる。退院後もケガ、腹痛い、気持ち悪い、学校へ行くという頃になると、今日は何とかかんとか。塾へ行く頃になると何とかかんとかと言って、頑張らなくなったんです。

甘え

更に輪をかけて、妻の母親が私たちと一緒に暮らすことになりました。そういうおばあちゃん「ごめんね、置いてもうて」と、一生懸命世話焼いてくれるんです。そうすると、娘の劣等コンプレックスはおばあちゃんの方にどんどん依存して、「お腹痛い」「そうかそうか」「気持ち悪い」「そうかそうか」と言うように娘の態度に直ぐに反応するわけです。

娘は本当に頑張らなくて、今日は何か痛いところ無いか、不幸なこと無いやろか、というふうにな不幸自慢というか不幸探しになって来たんです。不幸なことがあれば、皆が大切にしてくれるから、同情してくれるからと。それに直ぐに反応する祖母がいる。

そこで、私は娘と一晩中話をしました。これは娘が中三になってからなので、この数カ月の話です。

謝罪

私は、最初は娘を変えようつもりでした。お前、

そして、謝る時は謝る。

「よく考える」「向き合う」「言葉にする」「謝る」これは勇気のいることですけど、この四つが大仕事なことだと思います。

親でも謝る時は謝るんです。それは、自分の課題を子どもにぶつけた、自分の心の宿題をまるで子どもの宿題であるかのようにぶつけた時、それが謝る時だと思えます。

親と私・私と娘

そのことがあってから、娘に対しての見方ががらりと変わって、娘の態度も大きく変わりました。

娘を変えようとするよりも、娘のおかげで私

が自分の課題に気づいたという感じ。私の課題を、私に伝えるために、娘は私の許に産まれて来てくれたんじゃないかなって、そう思う位です。

それは二十六年前に、私が母親と向き合ったことから確信して学んだことです。だから、出来たのかもしれない。自分と自分の親との関係を整えると、自分と自分の子どもとの関係も整う。写し鏡のように整うのかもしれない。それが、娘とのエピソードです。

親の弱さ

そうやって今思うと、子どもって何で親を困らすのか。子どもの気持ちとしては、「私が小さかった頃の、あの産まれてきてくれてありがたうの状態に、戻ってよ」お母さん。「小さかった

ええ加減にしろ、何時までそんなこと続けてんのや。

でもその話の結末は、私の「ごめん」という謝罪でした。その後、娘は「自分も、実は不幸探しをしていた。そうすることによって、皆がちゃほやしてくることを、求めていた。頑張ることより、そっちの方が手取り早い。だから、今日もどこかに不幸が落ちてないかなみたいな、そんな自分にいつの間にかなってしまったかな」ということに、自分で気づき始めました。その後、娘は激変しました。

毎朝五時に起きて、今、十kmほど走っています。私も娘に謝った手前、娘と一緒に頑張る目標を持ちました。「お父さんも一緒に頑張るわ、二十kg痩せるわ」。今、それから十五kgほど痩せました。前九十kg位あったのですが、痩せました。あと五kgほどです。

私も気づきました。娘も気づきました。ここが大事なんですが、何となくはお互い、分かっちゃいました。俺にはこういうところがある。娘も何となく自分で分かっちゃいました。そのことを、言葉にすること。そして、謝る時は、謝ること。この「言葉にする」と「謝る」とは、なかなか実行できないものです。

だけど本当に大切なことは、何か不都合な状況が起こったときには、まずは、自分が自問自答して良く考える。

それから次に、私が母としたように、向き合うべき相手と向き合う。どこかに八つ当たりするんじゃないかって、向き合うべき相手と向き合う。そして次に、言葉にする。

うしたの」の声に大声で泣き始め、保健室へ。保健室からの携帯電話だったんです。結果的には、彼女は再受験して合格したんですが、再受験までの一週間、カウンセリングしました。

彼女は、彼女のお父さんはとても厳格な人でした。褒めてくれないお父さんに、とにかく褒めてもらおうと勉強も部活も頑張ってきたんですね。学校でも抜群の成績で、リーダーでもあった。

それが試験中に、そのことに對する苦しさ、そこから逃げたい。いろいろな思いが溢れて止まらなくなつたと言ってます。

じゃあ、それ、お父さんに話しようと言いました。出しゃばりみたいでしたが、そのお宅に行きました。

最終的に、お父さんの結論はこうです。

お前、そんなこと思ってたんか。そこまで思ってたんか。それは悪いことしたな。そんな事ないんやぞ、ただ俺は、お前のことが大事やで言うてただけなんやけど、そんなふうにしてたんか。別に、△△点やから縁を切るとか何点やから家族として認めるとか、そんなんやないんやぞ。

本当?お父さん。

当たり前やないか。

そんな話のやりとりのあと、再受験し高校生生活を普通を送り、大学を経て社会人になって安藤塾でも働いてくれました。

(続く)

実践紹介2 神戸町立北小学校

ポイント ○ 5つの型の組み合わせ ～子育てサロン型を取り入れた家庭教育学級～

神戸町立北小学校では、参加者同士がコミュニケーションを図り、これまでよりもっと仲よくなり、満足感を味わえる会にしたいという願いのもと、講演型や体験型に子育てサロン型を組み合わせた家庭教育学級を開講されています。



第1回…「開講式」 講演型+子育てサロン型（茶話会）

今年度、新しい校長先生、教頭先生に変わられたことから、校長先生の講話の後、教頭先生も交えて「子育てサロン型」の茶話会を開催しました。「家庭教育学級プログラム」を参考にゲーム的な自己紹介を行い、とても和やかな会となりました。

参加者の感想

- ・校長先生や教頭先生の人柄に触れ、とても親しみがもてた。
- ・安心して学校に子どもを預けることができるといった。

第2回…講演型（食育講話）+体験型（給食試食会）+学校行事参加型（給食参観）+子育てサロン型（子育て交流会）

栄養士さんによる「食育講話」を聴いた後に「給食試食会」を開くことで、講話の内容を思い出しながらの活動となり、より学びのあるものになりました。「子育て交流会」には栄養士さんにも参加いただき、保護者が食に関する悩みを相談したり、普段知りたと思っていたことを質問したりすることができました。



毎回の家庭教育学級が「講演」や「体験」のみでなく、様々な型（特に子育てサロン型）の組み合わせにより、学びを深めながら保護者同士も仲よくなるという爽やかな活動となっています。子育てサロン型の家庭教育学級は参加者同士が悩みを共有することで、うちとけ合うのにとっても有効です。

企業内家庭教育研修の紹介【高砂工業株式会社（土岐市）】

小中学校で行う家庭教育学級だけでなく、企業でも家庭教育に関する研修が実施されています。昨年度は県内22事業所において、子育て中の保護者、これから親になる若い従業員、子育てが一段落した従業員など幅広い層の参加者1,270人が研修を受講されました。今回は、高砂工業株式会社社員を対象として実施した企業内家庭教育研修を紹介します。



日時 平成28年5月27日 16:00～

講話 「コミュニケーションの大切さ ～家庭における男性（父親）の役割～」

講師 東濃教育事務所教育支援課 伊藤 葉子（家庭教育推進専門職）

参加者の感想

- ・私には5歳の娘がいます。話を聞いて特に印象に残ったのは、家族で囲む温かい食事をして、コミュニケーションをたくさんとった方がよいということです。（20代）
- ・いつ父親になるかわかりませんが、まず自分の親とのコミュニケーションの仕方から考え直していこうかなと感じました。そしてそれを自分が父親になった時実行してよいコミュニケーションの取り方や子育てをしていこうと感じました。（10代）
- ・子ども=若い社員と考えてみると、指導の方法がわかりました。すでに子どもは大きくなっていますが、自分の子どもへの伝え方のよかった部分と、まだまだな部分が見えました。まだまだな部分は若い社員への指導に役立てたいと思います。（40代）

岐阜県教育委員会では「ワーク（仕事）」と「ライフ（生活）」のバランスを保ち、「家庭を大切にすることが「企業を元気にする」と考え、「企業内家庭教育研修」のコーディネートを実施しています。研修テーマに合わせ、講師派遣も行います。教育事務所担当者まで実施希望をお知らせください。

県のホームページでは、他にも家庭教育学級の情報を発信中！ぜひご覧ください！！

一掲載内容

- ・平成23～27年度家庭教育学級の実践
- ・家庭教育学級運営マニュアル「みんなで子育て」
- ・家庭教育プログラム「みんなで子育てⅡ（乳幼児期編）」
- ・家庭教育プログラム「みんなで子育てⅢ（小・中学校編）」
- ・家庭教育プログラム「みんなで子育てⅣ（次世代編）」

岐阜県 家庭教育学級

検索

実践紹介1 山県市立大桑小学校

ポイント ○ 「ほめほめカレンダー」～「話そう！語ろう！わが家の約束」運動実践中～

大桑小学校PTAでは、「自ら進んで歩む子を支える家庭教育～認めて、ほめて、たくまさを育てよう～」をめざし、ほめることを目に見える形にし、1年間の足跡を残す「ほめほめカレンダー」に継続的に取り組んでいます。今回の家庭教育学級では子どもの頑張りやよさ、家庭のルールを守っている姿を認めてほめる方法の交流が行われました。

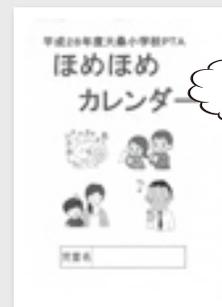
保護者交流会

「ほめほめカレンダー」の取り組みの様子の交流

- ・テストの点数が良かったので「お母さんは百点とれんわ」とほめたら嬉しそうにしていた。ほめる感覚ができてきた。
- ・子どもの小さな変化を敏感に感じるようになった。怒っていることの方が多いが、ほめることもできるようになった。
- ・お手伝いをしてくれた時「ありがとう」と言っている。
- ・記録用紙は近くに置いて忘れないようにしている。コメントも書いている。



実践資料紹介



保護者用

1年間分のカレンダー



子ども用

愛情あふれる保護者からの認め（印または言葉）が積み重ねられていきます。

〈ほめたこと〉
・すぐに勉強できた。
・水やりありがとう。
・荷物もってくれたね。
・英語がんばったね。

〈自分のよさ〉
・竹馬にはじめてのれたよ。
・しずかにそうじができた。
・かたづけが早くできた。
・朝ボランティアができた。

学校では、子どもが、自分のよさを自分自身で通帳に記録します。1冊終わると校内で紹介されます。

4月のスタート以来、保護者の方々がほめることのよさを体感され、家庭内での会話も増えています。学校では「わたしのよさの通帳」の取組みを行い、家庭と学校が子どものよさを伝え合うという双方向の活動となっています。子どもにも自信が付き、子どもの心の居場所が学校・家庭両方にしっかり根付いています。

お電話でご相談ください！
家庭教育学級や企業内家庭教育研修等、内容から講師選定までご相談に応じます。

飛騨教育事務所	東濃教育事務所	可茂教育事務所	美濃教育事務所	西濃教育事務所	岐阜教育事務所
050-8577-733	050-8577-733	050-8577-733	050-8577-733	050-8577-733	050-8577-733
050-8577-733	050-8577-733	050-8577-733	050-8577-733	050-8577-733	050-8577-733
050-8577-733	050-8577-733	050-8577-733	050-8577-733	050-8577-733	050-8577-733
050-8577-733	050-8577-733	050-8577-733	050-8577-733	050-8577-733	050-8577-733
050-8577-733	050-8577-733	050-8577-733	050-8577-733	050-8577-733	050-8577-733
050-8577-733	050-8577-733	050-8577-733	050-8577-733	050-8577-733	050-8577-733
050-8577-733	050-8577-733	050-8577-733	050-8577-733	050-8577-733	050-8577-733
050-8577-733	050-8577-733	050-8577-733	050-8577-733	050-8577-733	050-8577-733



所在地 本校 関市桐ヶ丘二丁目三番地 (分教室 関市桐ヶ丘二丁目二番地(関特別支援学校内))

いきいきと活動する子 明るいな子 じょうぶな子 がんばる子

学校の特徴

岐阜県立中濃特別支援学校は、知的障がいを対象とした特別支援学校です。当校の歴史は、昭和四十二年に児童入所施設「向山学園」の施設内特殊学級として設置されたのが始まりです。その後、県立養護学校となり、平成三年に高等部を設置して現在に至ります。

当校には、小学部、中学部、高等部があり、二五〇人を超える児童生徒が通学しています。二キロほど離れた関特別支援学校と合同で五台のスクールバスを運行しています。

当校の教育目標は、「いろいろな人とかかわり、地域で豊かに生活する力を育てる」です。地域の自然や特産を生かした学習活動や、卒業後の自立した生活を目指した職業教育に取り組んでいます。

芸の専門家にお越しいただき、「紙と光のワークショップ」という授業の中で和紙加工の技術を学んでいます。専門家の指導のもと、自分たちの作った和紙作品にあかりが点灯したときには、生徒から歓喜の声が上がります。仲間と作り上げた一体感や達成感を味わうことができます。

○高等部

高等部では「将来を見通し、主体的に生きる」生徒の育成を目指しています。集団生活や集団活動に適應する力、生涯にわたり健康で安全な生活を送る力、社会生活や職業生活に必要な知識や技能を身に付け自立する力の三つを高等部の主な教育の重点としています。

「生活単元学習」や「作業学習」、「日常生活」の指導の中で、仲間を意識して仲間と共に取り組む活動を行っています。段階的にグループの人数を増やしながら、将来の集団生活を意識したグループ構成で学習を進めています。また、毎日の体力づくりや給食の時間を通して、職場へ毎日通勤して働き続ける体力や栄養バランスの取れた食生活を身に付けています。週九時間実施して

○小学部

小学部では、学年ごとに週一回、学校の南側にある山へ出掛け、「山歩き」に取り組んでいます。山には、地面や木の根に手を付いて登る斜面コースや、なだらかな道が続く林道コースなど複数のコースがあり、「山歩き」を通して体力の向上や体の動きを調整する力を身に付けています。また、友達や教師と一緒に手をつないで歩いたり、互いに励まし合ったり、友達や教師と関わり合いながら活動しています。

学校間交流を行っている関市立南ヶ丘小学校の児童と一緒に「山歩き」を行う学年もあり、互いの頑張りを認め合い、心に残る交流会となっています。

○中学部

当校のある岐阜県中濃地域は伝統的工芸品として美濃和紙で有名な

いる作業学習は、八つの班に分かれて学習しています。トータルワーク班では、校内清掃や作業製品の管理、喫茶サービスを通して、働く力を身に付けるための学習に取り組んでいます。中には、ぎふアピリンピック(岐阜県障がい者技能競技大会)のビルクリーニング部門にも出場し、日々清掃技術の向上に励んでいる生徒もいます。

PTA活動の紹介

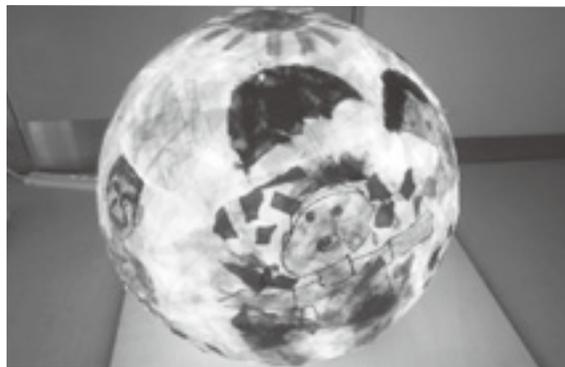
当校PTAは、本部役員と専門委員長(広報、厚生、研修、行事、地域活動)、支部長及び学校職員を加えた執行委員会が中心となって運営しています。PTAでは、児童生徒が地域で豊かに生活できることを願い、地域の方に児童生徒を知ってもらおう活動に取り組んでいます。

①PTAボランティア養成講座

地域活動委員会が中心となり、児童生徒の理解者や支援者を増やしていくことを目的として、年四回の講座(学習会)をPTA活動に位置付け、幅広く受講者を募って実施しています。講座では、障がいのある児童生徒の困り感を体験しても

ですが、美濃市ではこの美濃和紙を使用した美濃和紙あかりアート展を開催しています。中学部では、学年の仲間と共にあかりのオブジェを作り、このアート展に毎年出展しています。和紙は風合いや感触がよく、丈夫で加工がしやすいため、生

第22回美濃和紙あかりアート展 小中学生部門 入選



▲ぼくらの小さな世界

徒が親しみやすく扱いやすい素材です。自分たちの力で和紙をちぎったり貼ったりしながら九十cm立方のオブジェを作り上げます。出展した作品が入賞することで、生徒の意欲や自信にもなっています。

また、近年は美濃市より和紙工



▲ひまわり

らったり、実際に当校の児童生徒と関わってもらったりすることで、障がいについて理解していただくための取組をしています。講座を受講された方からは、「障がいについて少し分かった気がする」「保護者の生の声が聞けて大変参考になった」などの感想をいただいています。

②ボランティア登録

ボランティア養成講座を受講された方の中には、当校にボランティア登録をしてくださる方がいます。登録された方には、ご協力いただきたいPTA行事等をお知らせして、都合のつくところでお手伝いいただいています。ボランティア養成講座の運営の手助け、行事委員会主催の日帰り旅行やボウリング大会、学校祭での食品パザールのサポートなどをしていただき、児童生徒や保護者の活動を支えてもらっています。

③企業施設見学及び市役所訪問

研修委員会や支部委員では企業施設見学を実施しています。特に、支部活動として、居住地にある身近な企業や事業所の見学、居住地の市役所訪問などを実施しています。保護者と地元の企業や事業

所、自治体がお互いの実情を知る契機となっています。

今後も、家庭と学校で協力し合い、いろいろな場面で地域の方に児童生徒を知ってもらえる活動を行い、地域の理解者を増やしながら、一緒に生活できる環境を作っていきたいと考えています。



▲できないってどんな気持ち? (緩く軍手をはめた手で鶴を折る)

お弁当の日



多治見市立共栄小学校PTA

食生活への関心を高め、作ってくださる人への感謝の気持ち育てる

共栄小学校PTAでは、平成二十五年度から「お弁当の日・おにぎりの日」の取組みを行っています。それ以前は、六年生のみでお弁当の日を行っていましたが、全校の取組みとしました。実施するのは、運動会の振替休業日を設定する都合で、お弁当持ちとなる日として、毎年九月の末頃に行っています。

取組みのねらいは、
一、親子で一緒にお弁当やおにぎりを
作る活動を通して、親子の触れ合
いを深めること。

二、自分の食べるものを自分で作る活
動を通して、子どもに作ることや
食べることの大切さを感じさせ、
親子で食育について考える機会を
もつこと。

五・六年生では、学校の家庭科の授
業と連携して「お弁当の日」を行って
います。子どもたちは、家庭科で学ん
だことを生かして、栄養バランスを考
えてメニューと必要な食材を考え、調

理計画を立てます。それを家庭に持ち
帰って、自分で食材をそろえ、当日の
朝早くに起きてお弁当を作ります。中
には前日の夜からお弁当作りに取り組
む子どももいます。親の関わりについ
ては、各家庭で違いはあると思います
が、子どもが自分で取り組むように見
守ることを基本にしています。

一、四年生では、「おにぎりの日」
として実施しています。親がお弁当を
作ってくれるのを手伝って、おにぎり
ぐらゐは自分で握ってみようというも
のです。五・六年生の「お弁当の日」
につながる活動になっていると考えて
います。

お弁当の日当日の昼食の時間には、
PTAの役員を中心に数名の親が各学
級でお弁当を食べる子どもの様子を参
観しています。子どもたちは、友達と
の会話の中で「朝四時半に起きて作っ
たよ」「卵焼きは、昨日のうちに作っ
ておきました。」と話し、いつもの食
べるだけの楽しみに加え、作る楽しさ

子どもや親の感想から、取組みのね
らいは、ほぼ達成されていると思いま
す。今年度は、実施を運動会の振替休
業日ではなく、別に設定することで期
日をはっきりさせ、これまでの活動を
引き続き行っていく計画です。

子どもの感想より

- ・朝4時に起きてお弁当を作るのが大変でした。
- ・おにぎりは熱くて三角の形にするのが難しかった。
- ・肉をまいたり串に刺したり、簡単だと思っていたことでも、20分以上かかり大変だった。
- ・作るのは大変だったけど、食べたらおいしかった。今度は全部作ってみたい。
- ・いつもお弁当を作っているお母さんは、すごく大変だなと思いました。

親の感想より

- ・親子で話す時間があり楽しかったです。
- ・いつも忙しいので手伝ってもらおうと、かえって手間になり、つい自分だけでやってしまいますが、こういう機会があると一緒に作れるチャンスなので、生かして良かったです。
- ・これはどうやるの？これでいいの？と色々質問しながら頑張っていました。
- ・普段は起こさないと起きない子が、一人で早く起きてキッチンに立っていました。
- ・お父さんや弟に「ありがとう、おいしかった」と言われてうれしかったようです。
- ・親や食べ物のおりがたさが良く分かるので、取組みはとても良いと思う。
- ・後片付けまで含めてやれると良かった。
- ・仕事で大変なため、家庭の都合に合わせてお弁当を作るという形がとれるとよいと思った。

や充実感が調味料となって、一層おい
しそうに食べていました。食生活への
関心を高め、作ってくださる人への感
謝の気持ちを育てるきっかけになっ
ていると感じています。

取組みの成果については、本部役員
や母親委員が、当日の様子を中心に写
真や感想を整理してパネルを作成して
まとめています。それを、十一月の授
業参観の日を実施する教育講演会の会
場で展示したり、年間を通して校内に
掲示したりして、PTA会員全体で成
果を共有するようにしています。



健康に生き抜く力

私は、養護教諭として学校に勤務して二十数年が経とうとしていますが、仕事を始めてからずっと、こうして子どもたちと関われることに幸せを感じ、また同時に子どもたちからパワーをもらっていることを感じながら過ごしています。子どもたちの爽やかで元気なあいさつや、さらさら輝く笑顔を見ると、今日もまた頑張ろうという気持ちになります。

保健室には、毎日様々な理由で子どもたちが来室します。

先日も、一年生の男の子が泣きながら

膝や手のひら、肘のあたりが水で濡れていて、十分とは言えませんでした。傷口の汚れを洗ったことが分かりました。

すると、男の子が、「ぼくが、水道で洗わなあかんよ、って言ったんやよ。」と、私に話してくれました。「汚れとったらばい菌がつくでだめやで。」とも。少しだけ得意気な表情の男の子を見ながら、「けがのところをきれいに洗うこと、〇〇ちゃんに教えてくれたんやね。ありがとう。」と言うと、笑顔でうなずいてくれました。手当てを終えたあと、けがをした子の背中にそっと手を添えながら教室に戻っていく様子に、私はとてもうれしい気持ちになりました。

また、六月には全クラスで、歯科指導を行いました。発達段階に応じた歯のみがき方を歯科衛生士さんから指導していただきます。二年生の指導の時間、歯科衛生士さんから一年生の時に学習した歯のみがき方について、子どもたちに質問

保健室にやって来ました。私が、「どうしたの?」と聞くと、砂や泥で真っ黒に汚れた膝やすねを指さしながら、「チャームが鳴ったので、急いで教室に帰ろうと思って走っていったら、転んでまっただ。」と言います。たしかに擦り傷ができており、少し血が滲んでいます。「そうだったの。痛かったね。」と声をかけながら、さっそく手当てをすることにしました。

傷をした部分があまりにも汚れているため、まずは流水で砂や泥を洗い流します。洗いながら「転んでね、砂とか泥がついちゃったときはね、最初に水道できれいに洗うんやよ。やさしくそっとね。汚れをきれいに落とさないと、ばい菌が傷のところから入ってしまうと大変だからね。」

がありました。「一年生の時習った歯のみがき方覚えてる? 何みがきだったかな?」すると、一斉にあちらこちらから声があがりました。「覚えとるよ。王様みがきやろ。」そう言いながら実際に上手に歯ブラシを使って、磨いてみせてくれる子もいました。「ちゃんとみがいてるよ。」と言いながら一生懸命歯みがきをみせてくれる子どもたちを見ながら、また私はとてもうれしい気持ちになりました。

子どもたちを取り巻く環境は、大きく変化しています。また、それにもなつて子どもたちの心とからだの健康問題は、多様化かつ複雑化してきていると感じます。こんな時代を生きる子どもたちにも、生涯にわたって健康で生き抜く力に、身に付けてほしいと心から思います。

「健康で生き抜く力」とは、自分の命や健康を守るために、身に付けた知識を日常生活において活用し、自ら判断して

らね。」と、手当ての仕方を話しました。汚れを洗い流し、傷口がきれいになった状態を見てもらい、「もし、またいつか今日みたいに転んだりしてけがをしちゃった時は、まずこんなふう水道で砂や泥を自分で洗えるといいね。そのあと保健室に来てね。」と伝えました。傷を保護する手当てを終える頃にはすっかり泣き止んで、「ありがとう」と言って教室に戻っていきました。

その数日後、同じ男の子が保健室に息を切らしながら走ってきました。私が、「どうしたの?大丈夫?」と声をかけると、「ぼくじゃないよ。〇〇ちゃんが転んでけがした。」とのこと。後ろからけがをした子が、付添いの子と一緒に歩いてきました。傷を確認しようと見ると、

行動できることだと私は思います。保健室で子どもたちと関わる中で、これからも子どもたちに健康や命を守るこの大切さや、健康を保つための知識や技術を発信し続けたいと思っています。



体育科の先生方との出会い……そして今

揖斐川町立揖斐小学校 教頭

高木 俊紀

私は、山に囲まれた田舎で育ちました。空き地や田んぼ、山を遊び場にして、近所の仲間と毎日暗くなるまで遊んでいました。また、夏になると、毎日のようにカブトムシを捕りに、山道を上り下りしました。野山を駆けめぐる、そんな言葉がびったりの日々でした。そんな生活を送っているうちに、人並みより少しだけ運動ができるようになっていました。

時は流れ、高校の入学式の翌日、私は担任から体育係を命じられました。高校には体育教官室というものがあって、体育係は、前日に体育の予定を体育教官室に聞きに行かなくてはなりません。しばらく生活するうちに、体育科には生徒指導担当の先生が多く、体育教官室というのは、それはそれは恐ろしい場所であることがわかってきました。また、時には、校則に違反した先輩が呼び出され、厳しい指導を受けている場面にも遭遇しました。

入学後数ヶ月がたち、高校生活にも慣れてきた頃、私の心にも、ちょっとした変化が現れてきました。体育の担当のI先生は、とても丁寧な指導をしてくださいました。そのおかげで、いろいろな種目ができるようになり、模範として演技をすることも多く、そのたびに褒めてもらうようになり、体育の楽しさを改めて感じるようになりました。毎時間の学習内容を記録する体育ノートを書くのも体育係の仕事でした。そのノートも、気合いを入れて書くようになり、I先生のコメントを楽しみにするようになりました。また、頻繁に出入りをすることもあって、体育科の先生方に名前を覚えてもらい、話しかけてもらえるようになりました。いつの間にか、体育教官室は恐ろしい場所ではなく、私にとってはなんだかうれしい場所になっていることに気付きました。

先生方の勧めもあり、二年生になるのを機に、陸上競技部へと入部することを決心しました。部活動を始めたこともあり、体育教官室と体育科の先生方は、私にとってどんどん近い存在になっていきました。昼休みには、用事もないのに体育教官室を訪れ、いろいろな話を先生方とさせていたいくようになってきました。そうするうちに、体育科の先生方の存在がさらに大きくなり、憧れへと変わっていきました。

確か、二年生の秋頃のことだったと思います。いつものように体育教官室で油を売っていると、一人の先生から、「高木は将来どうするんや？」と聞かれました。何かスポーツ関係の仕事に就きたいぐらいの漠然としたものしかなかった私は、答えに困っていました。すると、別の先生が、「体育の教師になればいい。」と言われました。それがあったか！急に将来の夢が大きく膨らんだような気がしました。そして、体育科の先生方の存在が、憧れから目標へとかわっていったのでした。

結局、三年間体育係を務めた私は、体育科の先生方の強い後押しもあり、某大学の体育学部へ進学することができました。そして、大学卒業後は、小学校の教師となることができました。体育の楽しさを改めて教えてくださったI先生。体育の教師としての道を示唆し、後押しをしてくださった体育科の先生方には、本当に感謝しています。

教員になってからもしばらくの間は陸上競技を続けていました。今は、ソフトボールを楽しんでいます。スポーツを通して出会った仲間もたくさんいます。そして、教師も続けています。私の今がこうであるのは、高校の時の先生方のおかげです。

子ども達の運動離れと体力の低下が危惧されている今日だからこそ、体育の時間に「できた、上手になった」という喜びを味わわせること。それが運動好きな子ども達を育てる近道なのかと思います。お世話になった先生方に感謝しつつ、子ども達に運動の楽しさを伝えられるように、今しばらくがんばってみようと思っています。

時代の流れ

～大切な宝物である 子ども達の成長を見つめて～

私の小学生時代の夏休みの生活は、毎日朝六時に起きてラジオ体操に行き、十時までは家で勉強し、昼ごはんを食べてから川を堰き止めて作った川のプールで泳いだ。監視員の保護者は二人に対し子どもが二十人だったと思う。そして夕方まで友達と外で遊ぶ。子ども会のキャンプや肝試し大会等夜遅くまで友達と遊んだこともあった。

遊ぶ内容と言えば、テレビゲームがまだまだ普及していない時代のため、外でもつばら缶けりや野球、山の中で冒険ごっこなど今思えばよく遊んだ。同級生だけでなく、一年生から六年生、ときには中学生まで一緒だった。当然、体は真っ黒に日焼けし、擦り傷、切り傷が絶えなかった。消毒なんかすることもなく、唾をつけておけば治るといった、今ではありえないことばかりだったのかもしれない。

そんな私は現在三十九歳、小学生から保育園児の三人の子を持つ父親である。

私の故郷は温泉で有名な下呂市である。下呂市は温泉街だけでなく、自然豊かな緑に囲まれた静かな街でもある。私の実家は中心地から少し外れた場所であり、小学校まで歩いていくのに約一時間かかったものだ。通学班としては現在の仕組みとあまり変わらないが、朝少しでも早く学校に行きグラウンドで遊ぶため、みんなが走って通学した。

〇〇だった。というように昔と比較して話すことが度々ある。例えば「昔はゲーム機も少なく遊ぶといたら外で遊ぶのが当たり前だった」というように。よく、考えると今の子ども達に昔の自分と比較した話をしたところで理解できるはずがない。今が当たり前なのだから。

社会の組織や人間関係をよくするにはコミュニケーションが大切だとよく言われる。今、PTA会長という立場において、子どもの親という立場において、子ども達の思いや悩み、考えていることをいかに理解してあげるかが重要であると常々思い知らされている。大人からの一方通行ではなく、子ども達も意思がある一人の人間として理解してあげよう。それには、日頃からのコミュニケーションが大切である。

そう男女関係なしに。一年から六年まで関係なしに。時には帰りも走って帰ることもあった。冬は雪が多く降ることもあり、寒さと戦いながら一時間歩いた。当然、靴も濡れてしまった。

でも当時の走って毎日通学したおかげといったら大げさかもしれないがかなりの持久力がついたと今でも思っている。

昔話ついでに給食についてだが、メニューはさほど変わっていないが、大きく違うのは食器と牛乳である。まず食器は当時はまだ金物製であり古くなるとガタガタになっていた。それから順番にプラスチック製の容器が導入された。次に牛乳は当時は瓶。冬になると石油ストーブの上でお湯を沸かし牛乳を温めて飲んだりもした。今でもあるミルメークは当時は粉末だった。それが現在はパックとなった。

娘たちは、父親や母親の子どもの頃の話をよく聞いてくる。今の自分たちと比べるかのように、足は早かったの？宿題は多かったの？何して遊んだの？等々。そんな時は卒業アルバムを引っ張り出し見せてあげるととても喜んでいる。小学生の時代もあつた両親が今では大人になり自分たちの親となつていくことに対し、子ども達は将来そんな両親のようになるんだと思っっているのであろう。

逆に私は子ども達に対し、自分が小学生のころは

時代の流れにより、様々な事や物が大きく変化してきた。教育方針もその一つなのかもしれない。

その変化に逆らうのではなく、柔軟に対応していくためにも私自身が今の時代を理解し、子どもと向き合うようにしなければならない。

ただ一つ昔も今も変わらないのが、親にとって子どもは宝物であり、子ども達の笑った顔が大好きだということである。そんな子ども達の成長をこれからも見守り続けていく。



pleasure イラスト&クイズ



PN. なつみかん。(関市)



PN. カメ。(関市)

QUESTION-1

無いのに「おいしい、おいしい」と食べられるものは？



出題・三島 梓 (郡上市)

《答えは41ページ》



日本の
ゴール
キーパー。

クワルマの保険
すまいの保険
ケカの保険

GK

www.ms-ins.com MS&ADインシュアランスグループはサッカー日本代表を応援しています。

あいさつは自然に笑顔で気持ちを込めて

可児市立帷子小学校PTA副会長 可児 了子

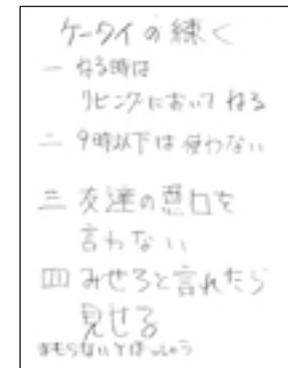


①挨拶を忘れない
②自分がされて嫌なことは、他人にしない
③ありがとうの気持ちをいつもいつも忘れない
いろんな約束がある中で挨拶をするという事は大事な事だ
と思います！
一日生活する中で沢山のの人に会って挨拶をする機会があります。学校が終わったり、友達の家遊びに行かせてもらったなら、お邪魔します！帰る時はお邪魔しました!!子ども達に必ず言っている様に約束しています。
家に遊びに来る子達で来た時は挨拶出来ても、帰りは知らない間に帰ってしまったという事が、全く挨拶なしだったり、あれ!?と思う事が。習い事など送迎してもらった場合はお願います！ありがとうがとうございました。当たり前前の事ですが礼儀です！その当たり前の事ができ、なおかつそれを笑顔で感謝など、気持ちを込めて相手に伝える事が出来る子になって欲しいです。

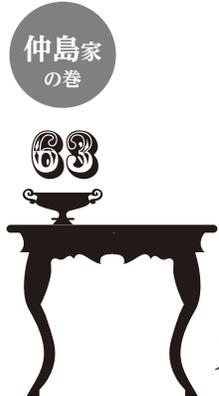
今はまだ分からないけど、挨拶の大切さを理解してくれて、約束ではなく自然に出てくるものになればいいなと思います。



話そう!語ろう! わが家の約束



我が家でスマートフォンを使っているのは父、母、成人の長女、高校生の長男の四台です。中学生の次男次女は自分のスマートフォンは無いですが、家族のスマートフォンで友達との連絡をLINEでしたり、暇なときにはゲームをしています。
子どもですから、ほっておくと二時間でも三時間でも使えます。
最近では、携帯電話でのいじめや、迷惑サイトにつながり変なサイトが怖いとか親の知らない事が多く、野放しにはできないので親子で話し合い、子ども自身でルールを作り、紙に簡易書きにして家族で納得の出来るルールを作りました。
約束一、ねる時はリビングに置いて寝る。
二、九時以降は使わない。
三、友達の名前を言わない。
四、見せろと言われたら見せる。
五、守らないと没収。
以上、五点の約束をしました。
今のところ、携帯電話で問題かなと思う事はありますが、時々携帯電話の中身を子どもと一緒に確認する事が大切だと思います。



北方町立北方中学校PTA会長 仲島 秀雄

スマートフォンの使い方について、親子で話し合い

★子の思い

わたしの母さん

 羽島市立堀津小学校
 三年 不破心菜

わたしのお母さんは、「自分のこととは自分でやりなさい」とよく言います。
 一年生の時、上へつこのあらい方を教えてくれたり、ナフキンなどのアイロンのかけ方を教えてくれたので一年生の時から学校のじゅんびは、がんばって一人でやっています。
 またトイレそうじのやり方や、せんたくきの使い方、せんたくものほし方、たたみ方など、たくさんのお母さんに教わります。「何でもお母さんがやればいいのよ」と思った事もありません。

わたしでもお母さんのやくにたつ事があるんだなあと思いつき、すこすこうれしかったです。

ま法のアルバム

大垣市立中川小学校
 四年 長瀬健新

僕の家の二階には、分厚いアルバムが二十六冊もある。写真好きのお母さんが、僕が寝ている間に、こっそり作ってくれたものだ。
 僕は、時々お母さんにじかられて、家出してしまいたくなる。でも、家出はちょっと怖いから、アルバムの部屋へ行くんだ。

『ナンバー①』のアルバムでは、生まれたばかりの僕を、お父さん、お母さんや、おじいちゃん、おばあちゃんが、代わるがわるに抱っこしている。泣きながら抱っこしているお母さんの写真を見て、どうしてかと聞くと「うれしすぎたからだよ。」「ナンバー⑦』では、妹が生まれて、家族で出かけた写真も増えて

くる。それを見るころには、なぜか気持ちがやわらかくなっている。そして、「じゅめんなさい」と言えるような気がしてくる。アルバムのま法かな。
 お母さん、今夜も、ま法のアルバムいっぱい作っておいね。

母に対して私ができること

坂祝町立坂祝中学校
 三年 井上友菜

私の家族は、父親がいない母子家庭です。父親がいないので、母が働かなくてはなりません。
 私の母も働いています。休みが少なかったり、休みの日も仕事に行ったりすることがあるので、家にいないことが多くあります。朝早くから仕事を始めて、夜遅く帰ってきます。そんな母に私はいつも頼ってばかりで、中学生になるまで母の生活を知りませんでした。
 中学生になってから、母の大変さを知り、自分から手伝いをやるようになった。すると、母が笑っている顔が多くなりました。

★親の願い

本気の友達づくりを!!

 多治見市立北栄小学校PTA
 会長 玉井美智子

子どもたちが学校から帰ってくると、皆がそろって怒涛のように一日の出来事を話してきます。夕飯の準備をしながらなので「お母さん、聖徳太子じゃないから順番を作って話し始める子どもたち。中学二年になる娘はそれこそ、トイレにまでついてきて話し続けるのですが、私は、毎日のその慌た

だしい時間が家族のつながりを感じさせてくれる貴重な時間だと思つくと、とても愛おしく感じます。
 私には他に、小六・小三・年長と、合わせて子どもが四人います。が会話にはいつも「友達」が出てきます。しかし、話の中には、「今日、このういことがあって……○○ちゃんか○○ちゃんにこんなことしてた。」「○○ちゃんにこんなことされた。」などの言葉も出てきます。その時、「じゃあ、それはよくないことだよか、嫌だからやめてよか、伝えたの？」と返す。急に黙り込み、「そんなこと言ったら、嫌われるやん……。」との返事が返ってきます。「じゃあ、な

んで相手の子がそういうことをしたのか考えてみようか。相手の立場に立って少し考えてごらん。やられたことを言うだけではなく、自分がやったこと、お互いの間に何かなかったか思い返してごらんよ。」と話す。子どもはしばしば考えるようになりまふ。
 私は、子どもたちには常に全力で友達づくりをしてほしいと願っています。それは、都合のいい表面だけの付き合いではなく、時として相手のこと、または自分の気持ちを考えて、言葉にしなければ伝わらないことをしっかりと目を見て伝える関係であるとういことです。

今、いろいろな場所でたくさん子どもたちに接する機会が増え、子どもたちを見てみると、「コミュニケーション」の取り方に少し不安を感じます。自分の受ける痛みにはすごく敏感で、むしろ先に防衛線を張って傷つかないようにしています。その一方で、相手の痛みにはひどく鈍感で、誰かを傷つけているかどうかさえ気づいてない状況が多い気がします。表面上は仲良くしていても、違う場所で陰口を言っていたり……。携帯電話を持つようになると小学校高学年〜中学生あたりから、顔の見えないSNSやラインなどで簡単に誰かのつわさや中傷するよう内容

をやりとりし始め、伝え方が間接的になり、直接言わないことで相手がどう思うかなどを考えると、もなく周りを巻き込みエスカレートしていくことに慣れていく……。
 私は、小さい頃から、どちらかといえば勝ち気で、友達と大声で怒鳴りあうようなケンカもしてきました。友達の陰口に腹が立てば、正々堂々と自分の気持ちを伝え、仲間外れになった子をいつも遊びに誘っていました。確かに、行動するときにはものすごく勇気がいられます。毎回、心臓もバクバクして、こんなことをして、周りの子に嫌われたらどうしようとかたくさん考えたりもしました。そ

大垣桜高校 まんが研究部

月よりだんご



逆さ言葉

ママのいのまま
 (ママの意のまま)

出題・佐藤友帆 (揖斐郡)

れでも、自分に「嘘」をつき続けて、他で陰口を言うよりはつと気持ちが良いのです。もちろん私自身、友達に心無い言葉を突き付け傷つけたこともあります。そのときには、大きく反省し、絶対に謝ると決めています。人間社会で生きていけば、必ず傷つき、傷つけながら生活します。だからこそ、分かれ合いながら、その一歩先に進むことが大切なのではないのでしょうか。メールや手紙では、相手の表情も見えず、本音で話していたとしても、伝え方が少し違っただけで大きく誤解され拡散されてしまうこともあります。だから今一度、ちゃんと相手の目を見て本音を話す勇氣、人の痛みに向き合うやさしさをもち、いつも自分に正直で、自分を大好きでいてほしいです。

子どもたちを苦しめるかもしれない。でも、きつとその優しさ、いつか必ず自分のところに帰ってくるものだと私は確信しています。

社会人として備えたい力とは

神戸町立神戸中学校

PTA会長 和藤潤司

私は小学校でPTA活動を五年、そして今回様々な縁で中学校においてもPTA活動に携わることとなり、多くの先生方と接する機会をいただくともに、子どもがお世話になっていいる学校に間接的ではあるものの関われることに喜びを感じているところであります。

現在、中学二年生と小学三年生の子どもの子育て真最中です。夫婦共働きのため、育児の大半を祖母に頼っていますが、PTA活動はもとより、子どもたちの行事に追われ生活しております。最近の子どもはとかく忙しいと言われますが、私も感心するくらい日

程に追われている感があります。長男は毎日の部活や塾、次男はスポーツ少年団や習い事にと、目まぐるしく日々が過ぎ去っていきます。とは言え、こうなることを予想しつつ、こうした状況を敷いたのは、欲深い私たち親であるため、若干の後ろめたさを感じながらも、確実に日々成長していく子どもを見て、自己満足しているところでもあります。

さて、現在職場において、人事管理業務に携わっていることから、若手職員に対する研修や新規採用職員の関係でいろいろな若者と接する機会があります。近年、決して若者ばかりではありませんが、他者への配慮不足、双方向のコミュニケーションなどが不十分で、理解不能、軋轢によって、人間関係がこじれたり、要らぬ誤解を招く傾向が多々あります。職場のみならず、PTA活動においても言えますが、人と人が協力し合って組織を成し、物事を進めていくには、何より円滑なコミュニケーションが大切です。採用面接

の際は特に感じますが、短い時間いかにアピールし、聞かれたことへの確に答えるかは、一朝一夕で身に付く能力ではないため、自己表現やコミュニケーション能力に長けた者とそうでない者には歴然の差がでます。

もっとも、採用された、不採用であった、という単純な話ではありませんが、やはり大切なのは、日々の経験や教えによって身に付く「社会性」を子どものころから育んでいくことではないでしょうか。大人も子どもも社会の一員。突き進むことも逃げることも経験等によって身に付くもの。子どもたちも忙しいなか、様々な方々と接することにより、徐々に社会性を育んでいってほしいと願っています。

家庭は社会の最小単位といえます。互いに忙しい中においても、子どもたちと一緒に、私自身もまだまだ未熟な社会性を育んでいきたいです。

★
教育の窓

温かいまなざし

美濃市立牧谷小学校

校長 鷲見昭一

先日、休み時間に六年生の男の子が校長室に入ってきました。「校長先生に質問があるのですがよろしいでしょうか。」その丁寧な話し方に感心しながら、話を聞いてみると、国語の学習で、学校のよい所を紹介するパンフレットを作るので、その記事を集めるためインタビューに来たとのことでした。

「僕は、牧谷小学校は全校の仲が

よいと思うのですが、校長先生はどう思いますか?」「先生も、全校の仲のよさが本当にうれしいと思っています。牧谷小の宝物だと思えます。」と答えました。

すると、その男の子は「校長先生は、どうしてみんなの仲がよいのだと思いますか?」「とさらなる質問。そこで、「あなたはどう思いますか?」とその男の子に切り返してみました。「僕は、スマイル班があつて一緒に遊んでいるので、自然と仲がよくなるのかなあと思います。」と答えてくれました。「校長先生も、まったく同じ考えです。縦割り班のスマイル班活動を一年間通して

やっていますね。見ていると上級生の子が、下級生の子のことを考えて、上手に遊んでいてくれます。上級生の子の顔を見ると、ニコニコして温かい表情で下級生に接してしてくれるのをよく見ます。本当に、よく面倒を見ているないつも感心します。きつとそんな上級生の子に、下級生の子があこがれて、自分もあんな風になりたいと思うようになるのだと思います。上級生の子たちの頑張りや温かさが、仲のよい学校にしているのだと思います。」と答えると、六年生の男の子は一生懸命メモをし、お礼を言つて出ていきました。

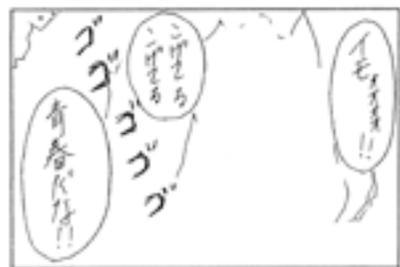
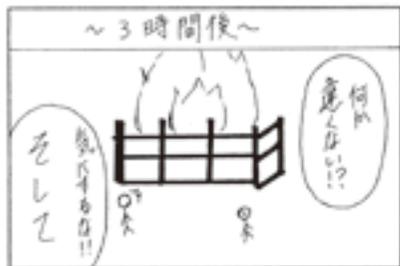
上級生の子が下級生の子に温かいまなざしで接するからこそ、それを下級生の子が感じ受け止め、安心して遊ぶ姿につながっていると改めて感じました。

今年になって、児童会の執行委員会の子たちのあいさつ運動が変わりました。ハイタッチをしながら、「○○さんおはようー」「○○さんさようならー」と笑顔で言つのです。一人ひとりの名前を言い、相手の目を見て笑顔であいさつをするのは、相手を大切にするためにやっているかと執行委員の子が教えてくれました。

子どもたちが示してくれる「温かいまなざし」や「相手の目を

大垣桜高校
まんが研究部

焼くいも



★
逆さ言葉
 ★

つまをまつ
 (妻を待つ)

出題・柳河瀬 史 (可児市)

見て笑顔」の姿は、子どもたちだけのものではなく、私たち教師はもちろん、保護者も含め、周りの大人が子どもたちに示していくものではないでしょうか。子どもたちに教えられる毎日です。

PTAの方々に
熱き思いに感謝

岐阜市立青山中学校
教頭 宮部 寿

本校は、コミュニケーションスクールとして、四年目を迎えます。その中核的な事業として、「中学生からのハローワーク」が位置付けられております。この事業は、キャリア教育の一環として、本校の中学生が実際に働いている地域等の方々から直接学ぶ機会を作りたいという保護者（PTA）の方々の強い願いのもと、平成十六年度に立ち上げられ、今年度で十三年目を迎えました。立ち上がった当初は、PTA主催の行事として位置付けられて



▲当日朝の打合せの様子

おりましたが、本校にてコミュニケーションスクールが立ち上がる同時に、その中核的な事業となりました。現在では支援推進委員会（キャリア部会）の取組みとして、旧のPTA本部役員と新しいPTA本部役員に企画・運営の全てを担っていただいております。

実際には前年度の十月に生徒達からの感想を受け、成果と課題等をまとめ来年度に向けての構想を明らかにした上で動き始めます。二月のPTA総会にて新年度の役員が承認されてか

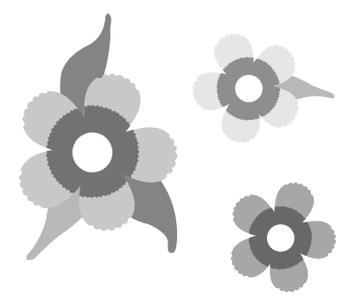
らは、新旧の本部役員が毎月集まって、新年度に開催される当事業の講師をリストアップすることともに、担当を決め、講師依頼を始めます。

依頼した講師には四月中旬に、各自のプロフィールを作成していただき、それをとりまとめ、「プロフィール集」を作成します。それを、全校生徒へ配付した上で、希望調査をし、各生徒の受講講座を調整するとともに、決定していきます。この調整にはPTA役員により丸一日かけてやっていたいております。講座が決まったら、生徒から集めたそれぞれの講師に聞きたいことを質問紙にまとめ、事前にお渡しし、当日を迎えます。では、今年度参加した生徒の感想を紹介します。

私は小さい子が大好きです。将来は保育士になりたいと思っています。今日の話を聞いてなりたいと思う気持ちが強くなりました。

小中連携を進めるため、昨年

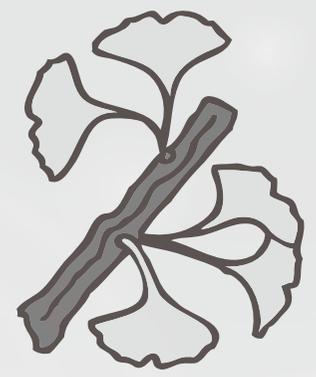
度より参加している鷺山小学校六年生に加え、今年度より常磐小学校の六年生も参加することになったため、小学生が教室に入るよう、講座数を三十九講座（昨年度）から四十五講座（今年度）へと増やしていただきました。昨年度末に、講座数を増やしたいとPTA役員の方に相談した時に、「校区の子ども達のために、頑張ります」と快諾していただけたことを今でも覚えております。昨年度の方よりも増やすということは、PTA役員の負担が増えるわけですから、それを校区の子ども達のためと、一肌脱いでいただけたことに感謝申し上げます。



Q1

秋になると黄葉した葉がとてもきれいなイチヨウの木。
ではそのイチヨウの木になる実はどれでしょう？

- ア まつぼっくり
- イ どんぐり
- ウ ぎんなん



Q2

童謡「紅葉（もみじ）」の歌詞の の中に入る植物はなにでしょうか？

秋の夕日に照る山もみじ
濃いも薄いも数あるなかに
松をいろどる や つたは
山のふもとの すそもよう



親子で はてな

9月号のクイズ

7月号クイズ答え

- Q1 市松模様 (いちまつもよう)
- Q2 A

7月号のクイズ当選者

中島 心愛 (岐阜市)	藤井 祐太 (養老郡)
堀 希実 (岐阜市)	佐藤 友帆 (揖斐郡)
伊藤 慎介 (山県市)	三島 梓 (郡上市)
池田 琴葉 (大垣市)	柳河瀬 史 (可児市)
金谷 桃奈 (大垣市)	三宅 晴 (美濃加茂市)
柳瀬 綺音 (不破郡)	石川 悠司 (恵那市)
高野 遥 (安八郡)	尾崎 伸明 (高山市)

応募方法

応募者は、はがきで、9月末までに下記の宛先へお送りください。
(1人1枚・当日消印有効)
※クイズの答えは1問だけでもOKです。

宛先 〒500-8824
岐阜市北八ツ寺町7
岐阜県校長会館内
岐阜県PTA事務局
「わが子のあゆみ編集部」

なお、応募はがきには「わが子のあゆみ」への感想・意見やなぞなぞの問題と答え、逆さ言葉などを記入してください。

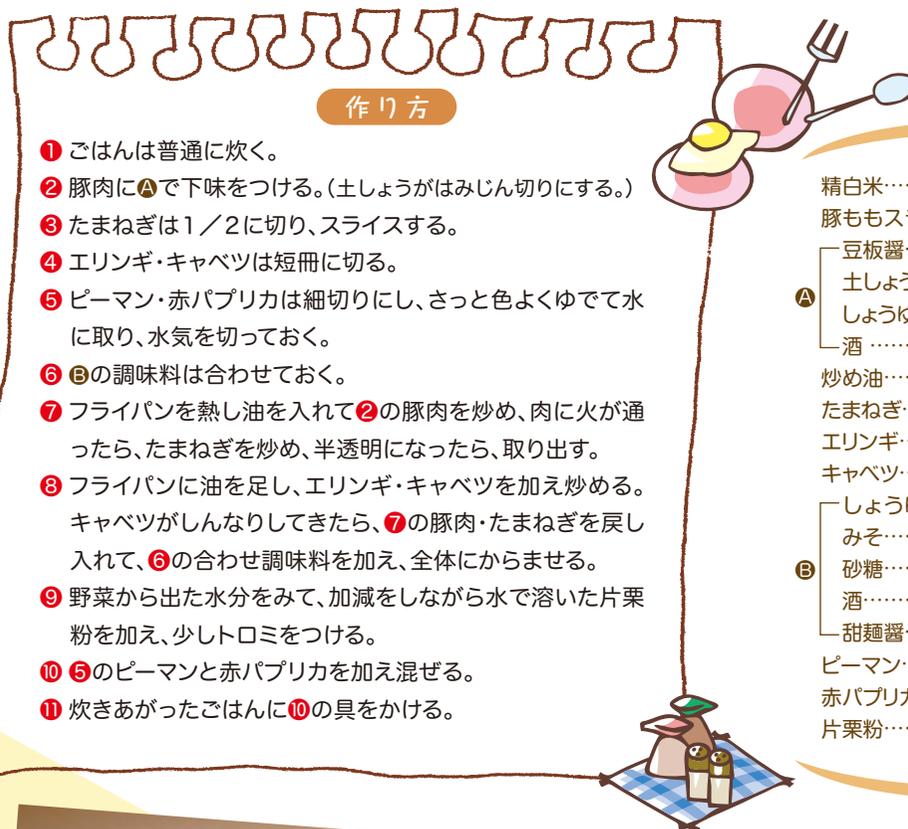
- 9月号クイズの答え
- 郵便番号・住所
学校・学年・氏名
保護者名
- 「わが子のあゆみ」への感想・意見
- 「なぞなぞ」の問題と答え
- 逆さ言葉

お試し
クッキング

スタミナ丼

岐阜県学校栄養士会

「スタミナ丼」は特に、6月～9月の暑い季節、食欲のない時などに食べやすいメニューです。また、豚肉は、運動会や体育祭の練習などで疲れた体を回復させる効果も期待できます。野菜は、人参、なす、もやし等、ご家庭にある物でも代用できます。豆板醤(トウバンジャン)や甜麺醤(テンメンジャン)で、辛みをお好みで調節して、より食べやすい我が家の味を作ってください。



作り方

- ごはんは普通に炊く。
- 豚肉にAで下味をつける。(土しょうがはみじん切りにする。)
- たまねぎは1/2に切り、スライスする。
- エリンギ・キャベツは短冊に切る。
- ピーマン・赤パプリカは細切りにし、さっと色よくゆでて水に取り、水気を切っておく。
- Bの調味料は合わせておく。
- フライパンを熱し油を入れて2の豚肉を炒め、肉に火が通ったら、たまねぎを炒め、半透明になったら、取り出す。
- フライパンに油を足し、エリンギ・キャベツを加え炒める。キャベツがしんなりしてきたら、7の豚肉・たまねぎを戻し入れて、6の合わせ調味料を加え、全体にからませる。
- 野菜から出た水分をみて、加減をしながら水で溶いた片栗粉を加え、少しトロミをつける。
- 5のピーマンと赤パプリカを加え混ぜる。
- 炊きあがったごはんを10の具をかける。

材料
4人分

- 精白米…………… 2合程度
- 豚ももスライス肉…………… 160g
- 豆板醤…………… 少々
- 土しょうが…………… 1片(7g)
- しょうゆ…………… 大さじ1/2(9g)
- 酒…………… 小さじ1(5g)
- 炒め油…………… 適宜
- たまねぎ…………… 中1/2個(120g)
- エリンギ…………… 2/3本(30g)
- キャベツ…………… 葉2枚(120g)
- しょうゆ…………… 小さじ2(12g)
- みそ…………… 小さじ2(12g)
- 砂糖…………… 小さじ1強(4g)
- 酒…………… 小さじ2(10g)
- 甜麺醤…………… 大さじ1(20g)
- ピーマン…………… 1/3個(12g)
- 赤パプリカ…………… 1/6個(15g)
- 片栗粉…………… 少々

●栄養価(1人あたり)

- エネルギー…………… 428kcal
- たんぱく質…………… 15.4g
- 脂質…………… 8.5g
- カルシウム…………… 35mg
- 鉄…………… 1.4mg
- 亜鉛…………… 2.2mg
- ビタミンA…………… 126μgRE
- ビタミンB₁…………… 0.55mg
- ビタミンB₂…………… 0.12mg
- ビタミンC…………… 11mg
- 食物繊維…………… 2.0g
- 塩分相当量…………… 1.1g

■作品を募集しています。イラスト・なぞなぞ・逆さ言葉などの作品を募集しています。イラスト・絵手紙はハガキに描いてお送りください。ペンネームを使う場合にも、郵便番号、住所・学年と氏名を忘れずに。写真・書写は郵送願います。なぞなぞ・逆さ言葉は「親子ではてな？」の回答とともに送り返して下さい。

宛先はいずれも 〒500-8824 岐阜市北八ツ寺町7
岐阜県校長会館内「岐阜県PTA連合会・作品係」まで。 採用の分にはお礼をさしあげます。

■本誌の購読について
本誌は年間5回発行(7・9・11・1・3月)されます。年度始め(4～5月)と7月の2回、各学校PTAを通じて購読募集を行います(1冊200円、5冊1,000円)が、年度途中でもお求めいただけます。学校または県PTA事務局へお問合せください。

■7月号を読んで

「子育て 仕事 PTA」がとても心にじんとききました。私の妻も本部役員を2年務めました。色々大変だったんだと分かりました。家族で協力し合えた2年間でした。役員をやった、良かったと思っています。 Yさん

毎年、本部役員を決めるとき、大変だと思います。引き受けていただける方には、本当に頭が下がります。私は7年前に書記をさせていただきましたが、小学校では先生からいろんな情報を教えてもらいました。今現在もボランティアで関わることあり、子どもの学校生活がよくわかります。 Nさん

「私の先生」静岡県出身の小田先生が岐阜県の先生になられて、良かったなと思いました。 Iさん

子育てとPTA活動、上手に両立してやってみるのがよく伝わります。余計にしっかり読もうと思いました。 Hさん

学校の委員会は、非常に大変だと思います。特に6年生は多いので、低学年の子の面倒もみなければならぬということなので、少し負担を減らしてほしいと思います。 Iさん

ついでの前まで小学生だった娘も、中学2年。「わが子のあゆみ」も早、10年以上読んでいます。いつも楽しみです。読み期間が、あと2年を切りました。 Kさん

「歯を育てるお弁当の日?骨まで食べれる小魚くらいしか思いつきませんでした。海藻やきのこなどの乾物も歯を育てる食材だということが分かりました。 Iさん

いつもしっかり読ませて頂いておられます。毎回、読むたびに逆さ言葉を子どもと一緒に考えています。 Mさん

「話そう!語ろう!わが家の約束」田中家の約束①ゲーム・テレビは週末のみ(1時間を限度)。わが家の約束に取り入れたいです。テレビに夢中なので、テレビ無しの生活に戻りたいです。(私はテレビは見ません。) Mさん

慌ただしい毎日の中で、文章を読む機会も少ないのですが、「わが子のあゆみ」が回ってくるので「早く回さなきゃ」という思いから、早朝などに読んでいます。勉強になることが、多いです。 Tさん

子どもの学校で、クラスの子にいじめがあり話し合いがありました。からかいや仲間に入れない、などでした。皆で話すことで解決し、良い方へ向かっていると思います。私自身、小学校の頃、過激ないじめに遭っていました。今のように話し合いもなく、親にも言えませんでした。毎日、とても辛い思いをしました。子どものクラスの子の事で話があったのですが、私は30年以上前のことを思い出して、辛くなり、泣きそうになりました。どんなに大人になっても、いじめられた時の悲しさや苦しさを忘れることは無いのだと思います。いじめを乗り越えることで強くなり、優しい人になれると信じていますが、一生心に傷が残ってしまうのです。いじめは、絶対にしないで欲しいです。 匿名

■編集後記

PTAは「より良いお父さん、より良いお母さんになれるように学びあう場」だと思います。そこではお父さん・お母さんの自主・自由な発想で活動が行われていて、活動を計画し進めるには、それに携わる人が必要です。選ぶのも決めるのも自主・自由なのですが画一的な平等論、参加機会の半強制的均等論が先行して硬直化している例が散見されます。役員として委員としてそこに参加するのも自主・自由であることの衆知を深めたいものです。誰もが「より良いお父さん、より良いお母さんになりたい」と願っているのですから。

岐阜県PTA連合会ホームページのQRコードです。「わが子のあゆみ」のバックナンバーが閲覧できます。



■なぞなぞの答え

- ①なし ②ソフトボール

■11月号のお知らせ(予告)

特集=定期大会記念講演「子育て 大切な視点 後編」安藤大作さん/表紙=則武小/学校のたからもの=中島小・北方南小・山岡小・藍川中/わが家の宝物=長森東小/家庭教育応援団/療育=岐阜本巣特別支援学校/お弁当の日=垂井小/保健室ノート=釜戸中/私の先生=岐阜中央中/半生記=大中小/一冊の本=釜戸小・大野中/わが家の約束=坂下小・巢南中/ボランティアニュース=外山小・根尾小・高富小・伊自良中/子の思い=高富小・関ヶ原小・東長良中/親の願い=宇留生小・竹原中/教育の窓=妻木小・小金田中/お試しクッキング/ふるさとの伝承=泉西小/きらりキッズ! =青基小/我がが部活=神岡中/私たちのPTA=川辺西小

わが子のあゆみ

平成28年9月1日 発行
初秋号 第68巻2号
通巻第444号

頒価 200円(年間1,000円)
*お問合せ申込みは、各学校または右記事務局へ。

編集/岐阜県PTA連合会広報委員会「わが子のあゆみ」編集部
発行/岐阜県PTA連合会
〒500-8824 岐阜市北八ツ寺町7 岐阜県校長会館内
電話/058-262-3257 FAX/058-262-3259
ホームページ/http://www.g-pta.com
Eメール/info@g-pta.com
印刷/サンメッセ株式会社

太田小学校ができる前、この場所は尾張藩の太田代官所でした。坪内逍遙先生の父は、この代官所の役人だったのです。逍遙博士は、安政六(一八五九)年五月二十二日、厳しくて曲がったことが嫌いな父平右衛門と、本好きな優しい母ミチの間に十番目の子どもとして生まれました。逍遙博士は、小説家・文学者としての顔に加え、演劇の方面にも力を注ぎ、文芸協会を開設したり、演劇博物館を完成したりしました。また『新修シェークスピア全集』の刊行に専心されました。こうして、数多くの業績を残した逍遙博士は、昭和十年二月二十八日、七十五歳でこの世を去られました。

太田小学校にある「逍遙山椿の部屋」は、逍遙博士が好んだ「山椿」の花の名にちなんで名付けられました。この部屋にある資料などを見て、子どもたちは逍遙博士の素晴らしさを知り、その人柄に触れる学習を行っています。

本校では毎年一月に「山椿の集い」を行います。その集いでは、逍遙博士作詞による「山椿の歌」を音楽クラブの伴奏で合唱したり、名古屋女子大学の林和利教授と劇団「シアターウィークエンド」を招いて、逍遙博士の訳によるシェークスピア劇の観劇をしたりしています。昨年は「ヴェニス商人」の一場面を全校で観劇しました。観劇の後には、逍遙博士による「ヴェニス商人」の朗読を聞きました。逍遙先生本人の肉声に触れることで、子どもたちは、逍遙先生を、より身近な存在に感じています。

「劇を観て、劇団の皆さんが私たち小学生が見ても分かるように、一生懸命練習してくださったことがよく伝わってきました。おもしろかったことや学んだことがたくさんありました。これからも逍遙先生に関わる本などをたくさん読んで、逍遙先生をもっと知りたいと思いました。」

「山椿の集い」を終えると、子どもはこんな感想を語っていました。

本校では美濃加茂市の朗読サークル「声のドラマ」の協力で、三年生児童を対象に朗読講座を行っています。この講座では、逍遙博士の家庭用児童劇の中から「狐と鴉」「こだま」などを取り上げ、チームで朗読劇に挑戦していきます。その成果を二月に行う学伝(学習発表会)で、保護者や地域の方の前で発表します。また、逍遙顕彰会主催の行事等にも積極的に参加し、二月には「逍遙を偲ぶ会」、六月には「坪内逍遙博士生誕祭」において、代表児童が朗読劇を演じたり、合唱を行ったりしました。

こういった機会を通して、地域の偉人の業績について理解を深めたり、文学や演劇について、一人でも多くの児童が関心を高めたりして、その素晴らしさを、将来後世に語り継いでほしいと願っています。



▲「ヴェニス商人」の一場面より



▲逍遙山椿の部屋



▲市制60周年記念事業「逍遙の世界」で演技を披露する子どもたち



▲3年生の朗読講座の様子より①



▲「坪内逍遙博士生誕祭」で朗読劇を披露する子どもたち



▲3年生の朗読講座の様子より②



「山椿の歌」の楽譜。逍遙先生が作られた詩に平成7年、当時の佐合良平教頭(元校長)が作曲し、以降太田小学校で歌い継がれています。特に1月の「今月の歌」になっており、「山椿の集い」でも全校で合唱しています。



▲「山椿の歌」を合唱する子どもたち

文学や演劇についての素晴らしさを、将来後世に語り継いでほしい

きらり！キッズ！

落合小学校は、全校児童一九二人の学校です。学校目標は「人間性豊かで、たくましく生き抜く子どもの育成」「キーワード」「つよい子」「やさしい子」「考える子」です。今回は、平成二十八年年度児童会スローガン「あ・い・う・え・お」の学校について紹介します。

あ

あいさつをしよう

児童会企画委員会は、毎朝児童玄関であいさつ運動をしています。登校してきた仲間自分から先にあいさつをしています。四・五月は生活目標「あいさつをしよう」について全学級で取り組みました。友達や地域の人にも進んであいさつができました。最近では立ち止まってお辞儀をしてあいさつをする姿も見られるようになりました。

立ち止まって、お辞儀をしてあいさつをする姿が広がっています。



い

いつも元気

いつも元気な落合の子たちの中で、六年生が特に元気を出すのが「風流(ふうりゅう)踊り」です。総合的な学習の時間に「伝統をつなぐ」をテーマに「風流踊り」に取り組んでいます。この踊りは、旧苗木藩の土蔵から発見された四〇〇年ほど前の絵図を再現した踊りで、毎年「おいでん祭八月十三日」で「落合小学連れん」として参加し、中津川のまちを熱く盛り上げています。地域の方を講師に五月から練習に励み、暑さを吹き飛ばすような「うーし」のかけ声が元気よく響いています。おいでん祭には、是非見に来てください。

う

歌ごえ響く

毎朝、どの学級からも歌ごえが響いてきます。一・二年生は「元気に楽しく」「三・四年生は「リズムにのって」「五・六年生は「美しい歌ごえ」で歌っています。また、毎月行われる児童集会では、全校合唱が行われ、それぞれの学年のよさが歌ごえとして響いてきます。

それぞれの学年のよさを発揮して歌っています。落合小学校には、元気な歌ごえが響いています。



お

思いやりを大切に

学校目標の実現に向け「だれもが安心して生活できる学校」づくりを全校で取り組んでいます。四年生から六年生は一人ひとりが「自分のため」を職員室前の壁に掲示して年間取り組みます。今年のひびきあい週間では「自分が言われてうれしい言葉を使おう」「ここに言葉としくしく言葉」をスローガンに全校で取り組みました。ここに言葉としくしく言葉を言われた時の気持ちを交流し、学級ごとに取り組み目標を決めました。そして「ひびきあい集会」を開き、成果を発表しました。こうして「安心して生活できる学校」にするためには、『思いやりの気持ちをもって生活することが大切だ』ということを学んでいます。

地域の方から教えてもらい、伝統をつなぎ、守っています。



え

笑顔いっぱい

落合小学校には、「なかよし(縦割り)グループ」があり、一年生から六年生までが一緒に活動しています。毎月、第三・第四火曜日は「なかよし遊び」を行い、六年生は、グループのみんなが笑顔になれるように遊びを考えたり、一緒に遊んで声をかけたりしています。そんな六年生がいるから、落合小学校には、いつも笑顔がいっぱいあふれています。



ここに笑顔がいっぱいあふれています。なかよし遊びは、みんな大好き。

安心して生活できる 学校・学級 私はこれを続ける

学年	担任	副担任	連絡先
1年
2年
3年
4年
5年
6年

全校児童192人が大切な仲間です。私たちは誰もが安心して生活できる学校になるように、一人ひとりが頑張っています。



家庭科研究部



普段は、フェルトやビーズでの小物づくり、夏休みには調理実習に取り組んだりしています。

卓球部



先生へのあいさつや練習環境の有り難さに感謝するなど、礼儀を大切にしています。

女子ソフトテニス部



ワイワイ楽しく明るい部活です。最近では特に声を出すことを頑張っています。

男子バレーボール部



普段の練習以外にも、朝練が外の日には掃除をしたりして、学校のために活動しています。

陸上競技部



1つ1つの動きを意識して練習し、自己記録の更新と仲間との絆を大切にしています。

野球部



元気で明るい部活です。部活動中も日常生活でもあいさつ、礼儀にこだわっています。

美術部



作品を今までよりよいものにするのを大切に、個人個人で作品作りをしています。

剣道部



剣道のことだけではなく、時間や礼儀にもこだわって取り組んでいます。

男子バスケットボール部



技術的な面だけではなく、時間を守るなど日常を大切にしています。

女子バレーボール部



3年生9人、2年生6人、1年生12人で活動しています。一生懸命声を出し、明るい部活です。

柔道部



部活を通して、心と体を鍛えます。また、マナーを大事にする部活でもあります。

ソフトボール部



日常生活がソフトボールにつながっていると考え、普段の生活を大切にしています。

吹奏楽部



音楽づくりを通して、自分をみがき、互いに高めあうことを大切にしています。

女子バスケットボール部



練習はハードですが、その分、試合で勝った時の喜びはとても大きいです。

男子ソフトテニス部



テニスというスポーツを通して、楽しく、部員全員が仲良くなっていける部活です。

バドミントン部



教えに来てくださる方への礼儀を大切にしたり、基礎の練習を大切にしたりしています。

サッカー部



勝ちにこだわり、礼儀正しくまわりに応援されるチームを目指しています。

私たちのPTA

岐阜市立合渡小学校PTA

平成二十八年年度PTAスローガン

子ども家庭も地域も共に成長するPTA

学校紹介

岐阜市立合渡小学校は児童数三六二名、全学年合計十四クラスでこの四月をスタートしました。合渡地区は、古くは中山道の五十四番目の宿場町として栄え、多くの旅人が「河渡の渡し」を利用して長良川を渡っていました。

「河渡の渡し」がある事からも分かるように、長良川や、支流の伊自良川がそばを流れており、洪水災害に悩まされてきました。その教訓を生かす為に「防災教育」に力を入れています。昨年度から「防災キャンプ」と称し一泊二日で防災について学ぶ体験型学習をしています。この防災キャンプにはコミュニティスクールの特色を活かし、地域の諸団体の方々より多数のご協力を得て成り立っています。

PTAのポイント制

合渡小学校PTAは平成二年に「専門委員長・学級委員・地区委員選出内規」を制定し、PTAにポイント制を導入しています。この制度は、各役職に応じたポイントを付与し、一定以上のポイントを獲得することでPTA会員が平等に活動に携わることが目的としております。ポイントは世帯当たりの累積計算とし、消滅することはありません。

規約・内規改正

ポイント制は、平成二年から幾度となく改正を重ねてきました。しかし、時代の変化は著しく、特別な家庭事情(母子・父子等)を持つ会員さんが増えてきました。これまで特別な家庭事情の場合は、本部や選挙管理委員会にてその都度判断してきましたが、次第に難しさを増してきました。「この事を鑑み、昨年度の初めに「ポイント制についてどう思うか?」「特別な家庭事情について配慮すべきか?」などを含めたアンケートをとりました。結果としては「ポイント制については維持で良い」「特別な家庭事情には配慮すべき」などのご意見を多数いただきました。本部会議、執行委員会でも協議し再アンケートを繰り返し、特別な家庭事情は獲得ポイントを引き下げ、父子については後述するおやじの会への参加にて役員免除等の配慮を決定し、今年四月の総会にて承認いただき改正に至りました。

おやじの会

普段、母親に任せがちなPTA活動に父親も参加してもらおうという趣旨から、おやじの会があります。設立当初は任意団体として活動しておりポイント付与はありませんでしたが、三年前よりおやじの会にもポイントを付与するようになりました。活動内容としては各行事のお手伝いや、運動会の準備、運動場の側溝掃除、今年度よりプール掃除などしております。これまでは活動のお手伝いがメインでしたが、今年度よりおやじが主催して活動できるように頑張っております。

子どもフェスティバル1



親子工作



子どもフェスティバル2



4校ソフトバレー大会



防災訓練2



防災訓練1



プール掃除(おやじの会)



いこまい河渡宿祭



学年代表委員打ち合わせ会



ベルマーク集計



成人教育講座



総会



がんばる子らの 汗と笑顔と眼差しと

安八町立名森小学校



さくらんぼ集会

6年生が1年生を背負って、校庭のサクランボを収穫し、全校で食べます。



親子オリエンテーリング

親子で郷土に関わる問題を解きながら10のポイントを回ります。



大縄大会

児童会の主催で大縄大会を行います。チームの心をつとめて跳びます。



名森っ子塾

地域の先生に、昔の暮らしや「9・12災害」の話聞かさせていただきます。



蚕の飼育・糸引き

4年生が総合的な学習で、地域の先生に教えていただきながら、蚕を育てたり、繭から糸を引いたりします。



持久走記録会

学年ごとの距離で走ります。自分の最高記録を目指します。

わが子のあゆみ
2016.9 No.444 初秋号
第68巻2号

発行：岐阜県PTA連合会
〒500-8824 岐阜市北八ツ町7 岐阜県校長会館内
編集：岐阜県PTA連合会広報委員会「わが子のあゆみ」編集部
頒価：200円 年間1,000円
この刊行物は一部岐阜県からの助成金を受けています。

バックナンバーのお求めは
058(262)3257
県PTA連合会事務局へ